



SUNSTAR
SUNSTAR
SUPER BIKE SERIES

'94全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦

SUNSTAR SUPER BIKE 100mile

'94 OFFICIAL PROGRAMME

FIM・MFJ公認/主催:株式会社 鈴鹿サーキットランド

協賛:サンスター 株式会社

3/12 ± 13日
(公式予選) (決勝レース)

RACE START

GP125 10:30

GP250 11:50

SUPER BIKE 14:00

(100mile)

NB-GP125 15:50



 **SUZUKA CIRCUIT**

WIN THE DOUBLE CHAMPIONSHIPS

GP2 class CHAMPION
TETSUYA HARADA
TEAM TELKOR YAMAHA VALESI
YAMAHA TZ250M

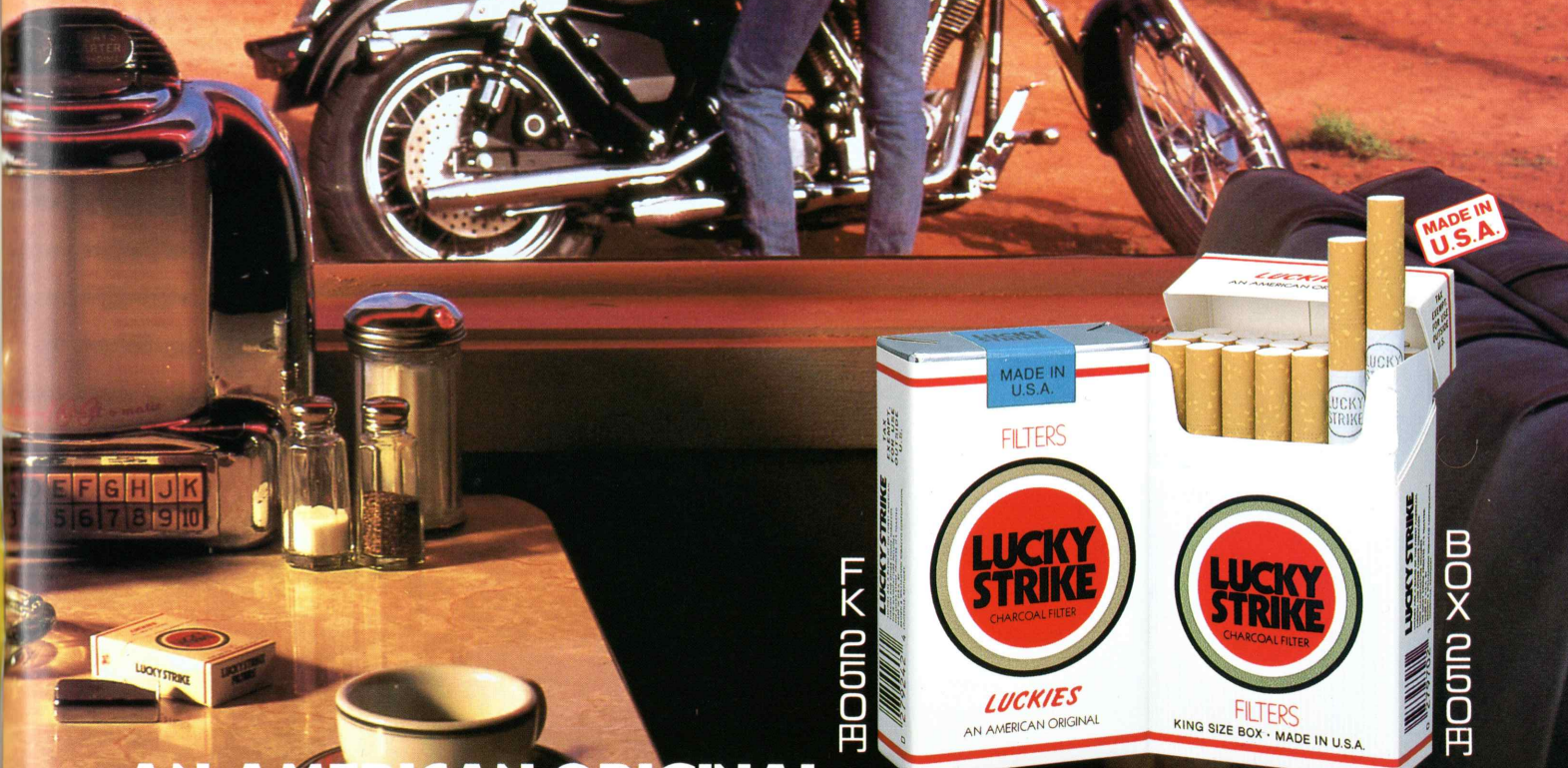


GP3 class CHAMPION
DIRK RAUDIES
TEAM EUROPA RAUDIES
HONDA RS125R

ダンロップタイヤ装着車が
'93ロードレース世界選手権において
2クラス(GP-2&GP-3)を制覇。

Dunlop's winning ways continued at the 1993 Road Race World Championship, where machines using Dunlop tyres claimed victory in classes GP-2 and GP-3. Dunlop motorcycle tyres offer superior performance and perfect response to your maneuvering. In Grand Prix competition—where tyres are subjected to incredibly harsh demands—Dunlop tyres really excel. That's why you'll find Dunlop in the winner's circle at so many Grand Prix events.

 **DUNLOP**
DRIVING TO THE FUTURE



AN AMERICAN ORIGINAL.

LUCKY STRIKE

LUCKY STRIKE

タール11mg/ニコチン0.9mg

タール11mg/ニコチン0.9mg

LUCKY STRIKE

未成年者の喫煙は禁じられています/あなたの健康を損なうおそれがありますので吸いすぎに注意しましょう



あくまでも、スパルタン。
全機能を進化させて、ラパイド *e*、誕生。

RAPIDE *e*

●機種名：ラパイド*e* ●帽体：cLe構造（コンプレックス・ラミネート・コンストラクション） ●規格：スネル1990 JIS C種 ●内装：システム内装（頬パッド調節可能・特許出願中） ●価格：¥35,000
●シールド：スーパーアドシス標準装備（特許出願中） ●色：白、黒、Vメタリック、グレイメタリック、キャンディー・レッド ●サイズ：(53-54)、(55-56)、(57-58)、(59-60)、(61-62) （消費税は含まれていません）



■システム内装
汗や汚れの気になる頬部システムパッド、頭の周りを覆うサイドクッションを着脱式にした、洗濯可能なシステム内装。

■フラッシュサーフェイスホルダー
エアロダイナミクスを追求し、フラッシュサーフェイス化をさらに進めたスーパーアドシスXホルダー。

■サイドアウトレット
ブローベント・マウススリットからエアを吸入、頭部の熱気を逃がす新設計。従来にないボリューム感は剛性をも確保。

■ニューマウススリット
マウススリット部に段差をほどこした新形状採用。これにより、テンパー部分の剛性はいっそうの強度アップを実現。

■着脱式ディフレクター
シールドの曇りを防ぐ着脱可能なノーズディフレクター。天候に合わせて取り外しが自由ででき、軽快&快適さをアップ。

■トリムライン
後ろを振り返った際も鎖骨にぶつからないトリムラインと、フラッシュサーフェイス化によりさらに剛性を増したトリム。



ロードレース世界選手権GP2(250)'93チャンピオン獲得
おめでとう、原田選手。
RAPIDE *e* ハラダ
¥45,000（消費税は含まれていません）

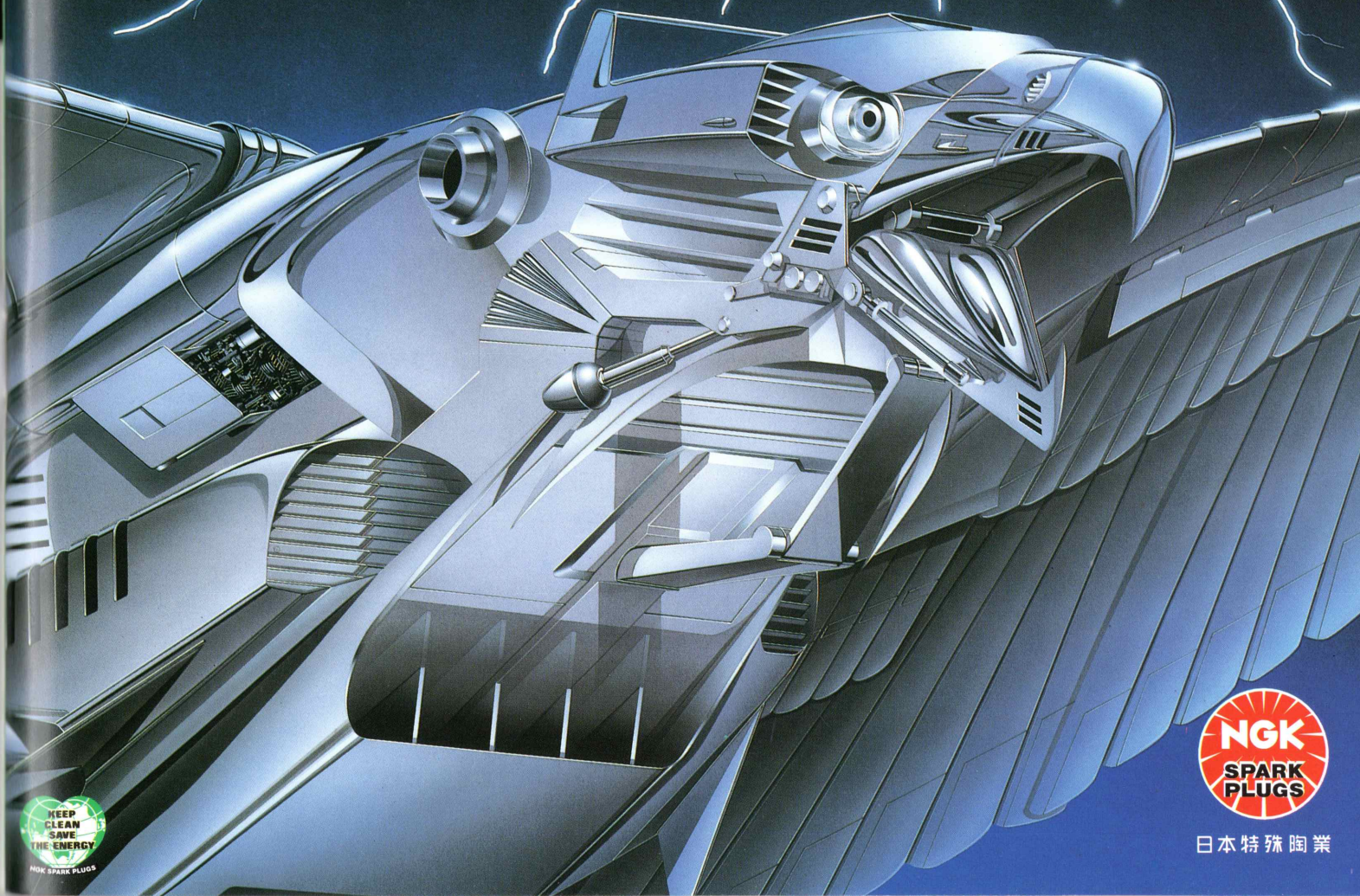
ロードレース世界選手権GP3(125)'93第2位。
感動をありがとう、坂田選手。
RAPIDE *e* サカタ
¥45,000（消費税は含まれていません）

The Winning Spark

火花が閃いた瞬間、眠るマシンに力がみなぎる。
レスポンスを捉え、果敢にスピードに挑戦する凄い奴。
その名はNGK Vシリーズプラグ。Vパワーが加速を制覇する。

驚異的パワー

NGK **V**シリーズプラグ



日本特殊陶業



W E L C O M E



大会名誉会長
金田博夫

Honorary President
Hiroo Kaneda

本日は「'94全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦サンスタースーパーバイク100mile」に、ようこそお越しくございました。

いよいよ全日本ロードレース選手権シリーズがここ鈴鹿で開幕いたします。

今年は、TT F1がスーパーバイクに移行され、GP500クラスが休止となったことで、スーパーバイククラスが国内最高峰のレースとなりました。

これにより、本シリーズの名称も「サンスタースーパーバイクシリーズ」と改め、本大会を皮切りに6月の200km、9月の2ヒートレースと開催してまいります。

スーパーバイククラスに国内のトップライダーが集結し、どんなレースを披露してくれるのか楽しみでなりません。

また、世界レベルの激戦が続くGP250クラスやGP125クラスも合わせて、みどころが多い大会となりましょう。

サンスターグループは、鈴鹿ラウンド全3戦に協賛をさせていただいて今年で3年目を迎えますが、「常に人々の健康の増進と生活文化の向上に奉仕する」の企業理念のもと、今後も若者に絶大な支持を得ているモータースポーツ文化の発展に貢献させて頂きたいと願っております。

最後に、大会を支えて下さっているファンの皆様をはじめ関係各位のご尽力に、深く感謝致しますと共に、選手、チームの皆様のご健闘と本大会のご成功をお祈り申し上げます。

サンスター株式会社 代表取締役社長 金田博夫

公示 OFFICIAL NOTICE

本競技会は財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)公認のもとに国際スポーツ憲章・競技規則に基づいた財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会の国内競技規則ならびに本競技会大会特別規則に基づいて開催される。

This event, authorized by M.F.J., Motorcycle Federation of Japan, will be held in accordance with M.F.J. national race regulations based on the International Sporting Code.

開催競技会 EVENT

名称 '94全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦
サンスタースーパーバイクシリーズ
サンスタースーパーバイク100mile
●併催 '94鈴鹿選手権シリーズ
鈴鹿サンデーロードレース第3戦

日程 1994年3月12日(土)・13日(日)

主催 株式会社 鈴鹿サーキットランド

協賛 サンスター 株式会社

会場 鈴鹿サーキット フルコース(5.86403km)

Event: '94 All Japan Road Race Championship Series Round 1
SUNSTAR SUPER BIKE SERIES
SUNSTAR SUPER BIKE 100mile

● Supporting Race: '94 Suzuka Championship Series

Suzuka Sunday Road Race Round 3

Date: March 12, 13, 1994

Organizer: Suzuka Circuitland Co., Ltd.

Official Sponsor: SUNSTAR INC.

Place: Suzuka Circuit 5.86403km

ご協賛各社 SPONSORS

株式会社アライヘルメット
株式会社三栄書房
株式会社山海堂
株式会社三推社
サンスター 株式会社
住友ゴム工業 株式会社
日本特殊陶業 株式会社
株式会社 ニューズ出版
株式会社ブリヂストン
モーターマガジン社
横浜ゴム 株式会社
ラッキーストライク
(五十音順)

C O N T E N T S

公示 OFFICIAL NOTICE 7

大会組織・タイムテーブル OFFICIALS/TIME TABLE 8

発進ノ全日本スーパーバイク SUNSTAR SUPER BIKE 100mile RACE PREVIEW 10

- ・スーパーバイクとは 12
- ・有カライダー紹介 14
- ・マシン解説 16

エントリーリスト ENTRY LISTS

スーパーバイク 21
GP250 24
GP125 26
NB-GP125 29

GP250/GP125/NB-GP125レース紹介 GP250/GP125/NB-GP125 RACE PREVIEW

レース見どころ 36
有カライダー&マシン解説 40

鈴鹿サーキット観戦ポイントガイド SUZUKA CIRCUIT COURSE GUIDE 44

NK400&スーパーバイカーズが面白い NK400&SUPERBIKERS 46

タイムテーブル TIME TABLE

		8	9	10	11	12	13	14							
3/11 (金)	●特別フリー走行 Free Practice			GP125 A 30	45 GP125 B 15	30 GP250	15 スーパー バイク 45	40 GP125 A 10	25 GP125 B 55						
3/12 (土) 公式予選	●パドックゲートオープン Paddock Gates Open ●公式予選 Qualifying Practice	6:30		GP125 A 25	35 GP125 B 45	20 GP250 A 45	55 GP250 B 20	40 スーパー バイク 05	GP125 A 25	35 GP125 B 45	20 GP250 A 45	55 GP250 B			
3/13 (日) 決勝レース	●パドックゲートオープン Paddock Gates Open ●ウォームアップ走行 Warm Up ●コースイン・スタート進行 Starting Procedure ●決勝レース Race ●仮表彰式 Temporary Podium Ceremony ●ピットウォーク Pit Walk	7:00		40 GP125 55	10 GP250 25	40 スーパー バイク 55		15	30 GP125 (15周)	35	50 GP250 (17周)		45		40

大会組織 OFFICIALS

大会名誉会長 Honorary President	金田 博夫 サンスター株式会社 代表取締役社長 Hiroo Kaneda
大会名誉副会長 Honorary Vice-President	金田 安義 サンスター株式会社 代表取締役副社長 Yasuyoshi Kaneda
大会名誉副会長 Honorary Vice-President	金田 忠行 サンスター技研株式会社 代表取締役副社長 Tadayuki Kaneda
大会会長 President	星島 浩 Hiroshi Hoshijima

大会組織委員会 Organizing Committee	
組織委員長 President	前山 和彦 Kazuhiro Maeyama
組織委員 Member	三原 哲夫 Tetsuo Mihara
組織委員 Member	樽井 良司 Ryohji Tarui

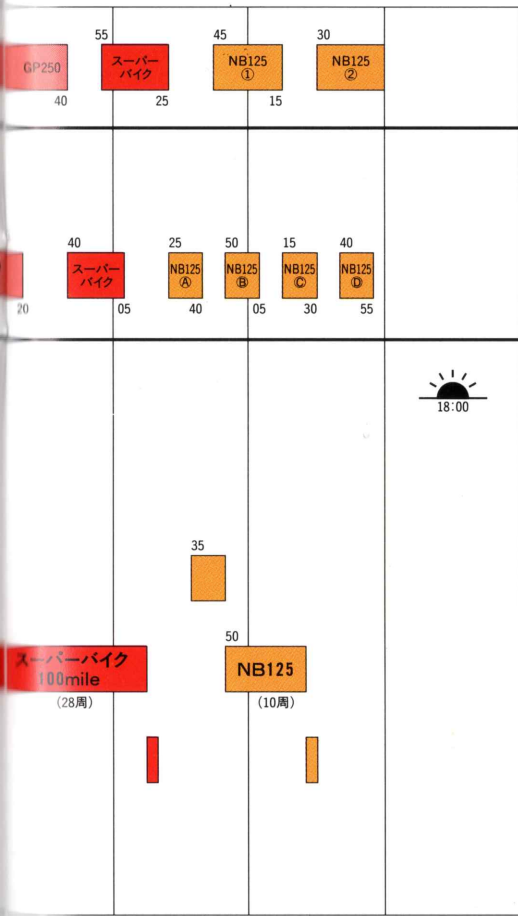
大会審査委員会 Jury of the Meeting	
審査委員長 Chief Steward	福永 頌 Hiroshi Fukunaga
審査委員 Steward	木村 吉次 Yoshitsugu Kimura
審査委員 Steward	井上 勇 Isamu Inoue

大会顧問 Adviser	工藤 治夫 サンスター株式会社 常務取締役 Haruo Kudoh
大会顧問 Adviser	佐竹 貞夫 サンスター技研株式会社 取締役 Sadao Satake
大会顧問 Adviser	中川 宗和 サンスター株式会社 広告部 部長 Munekazu Nakagawa
大会顧問 Adviser	藤井 璋美 Teruyoshi Fujii
大会参与 Counselor	近藤 幾夫 Ikuo Kondoh
大会参与 Counselor	志村 行勇 Yukio Shimura

大会競技役員 Officials of the Base	
レースディレクター Race Director	杉本五十洋 Isoyo Sugimoto
競技監督 Clerk of the Course	和田 将宏 Masahiro Wada
副競技監督 Assistant Clerk of the Course	小林 修治 Shuichi Kobayashi
副競技監督 Assistant Clerk of the Course	市瀬 重敏 Shigetoshi Ichise
コース委員長 Chief Course Marshal	坪井 清貴 Kiyotaka Tsuboi
副コース委員長 Assistant Chief Course Marshal	内田 鉄弥 Tetsuya Uchida

車検委員長 Chief Technical Steward	舘 正信 Masanobu Tachi
副車検委員長 Assistant Chief Technical Steward	上原 隆春 Takaharu Uehara
計時委員長 Chief Time Keeper	早川 勉 Tutomu Hayakawa
副計時委員長 Assistant Chief Time Keeper	津村 義則 Yoshinori Tsumura
進行委員長 Paddock Director	鈴木 証二 Shoji Suzuki
副進行委員長 Assistant Paddock Director	飯田 省三 Shozoh Iida
ピットパドック管理委員長 Pit-Paddock Controller	内田 修一 Shuichi Uchida
副ピットパドック管理委員長 Assistant Pit-Paddock Controller	加藤 龍志 Tatsushi Katoh
保安委員長 Chief of Emergency	室賀 良久 Yoshihisa Muroga
副保安委員長 Assistant Chief of Emergency	榊田 勝久 Katsuhisa Masuda
救急委員長 Medical Director	石原 公郎 Kimio Ishihara

15 16 17



レギュレーション抜粋 SUPPLEMENTARY REGULATIONS

第14条 公式予選

- ～4) 公式予選の義務周回数とは定めない。ただし、少なくとも1周はラップタイムが計測されなければならない。
- ～5) 決勝出場台数は44台とする。

第16条 スタート

- ～1) スタートグリッドは4-4-4...と配列され、ポールポジションは最前列右側とする。
- ～2) スタート方法はクラッチスタートとする。
- ～3) グリッド上でのタイヤウォーマーの使用は禁止される。(余熱による保温は許される)

第17条 レース中における燃料補給

- ～1) 100mileのスーパーバイククラスは、決勝レース中の燃料補給を行うことができる。
- ～2) 燃料補給とは補給装置を燃料タンクに接続した状態を指す。
- ～3) 燃料タンクは24ℓ以下とする。
- ～7) 燃料補給中はエンジンを停止しなければならない。

第18条 コース外走行

- ～1) 安全上の理由によりやむを得ない場合を除き、ショートコース、短絡路など規定外のコースを走行してはならない。これに違反した場合は、罰則を課す。
- ～2) ピットインする場合は西コースショートカット先のピットイン専用路を徐行すること。安全上の理由によりやむを得ない場合を除

き、正規のピットイン専用路を使用せずエローラインカットしてピットインした場合、下記罰則が課せられる。

- ①公式予選中の場合はカットした時点以後の予選タイムは無効とする。
- ②決勝レース中の場合はペナルティを課す。

第20条 レース終了

- ～1) ゴールはトップが各クラス定められた周回を終了した時点でトップにチェッカーフラッグが振られる。
- ～2) 正式レース終了は、チェッカーフラッグが振られてから4分後である。

第27条 賞典

	スーパーバイク	GP250	GP125	全クラス
優勝	200万円	100万円	50万円	トロフィー
2位	100 //	50 //	35 //	トロフィー
3位	70 //	35 //	25 //	トロフィー
4位	60 //	30 //	20 //	トロフィー
5位	50 //	25 //	16 //	トロフィー
6位	40 //	20 //	12 //	トロフィー
7位	30 //	15 //	9 //	
8位	20 //	10 //	8 //	
9位	15 //	7 //	6 //	
10位	10 //	5 //	5 //	
11～15位	8 //	4 //	4 //	
16～20位	6 //	3 //	2 //	
グリッド賞(決勝グリッドに並んだもの全員) 3万円				
総額	797万円	464万円	348万円	

広報委員長
Public Relation Director

事務局長
Secretary General

レースアナウンサー
Official Announcer

鈴鹿サーキットクイーン
SUZUKA CIRCUIT Queen

鈴鹿サーキットクイーン
SUZUKA CIRCUIT Queen

鈴鹿サーキットクイーン
SUZUKA CIRCUIT Queen

鈴鹿サーキットクイーン
SUZUKA CIRCUIT Queen

内田 亨
Toru Uchida

中野 能成
Yoshishige Nakano

みし奈昌俊
Masatoshi Mishina

稲泉 裕子
Hiroko Inaizumi

西山 浩代
Hiroyo Nishiyama

薮田 里奈
Rina Yabuta

山本 紫可
Shiyori Yamamoto

●コース 早川 範良 児玉 康裕 立松 誠一 川邊 雅永 石田 吉孝 内田 鉄弥 柴田 欣也 窪田 光男 土田 雅美 内山 元子 山下 洋 伊藤 裕康 野木森秀実 早川ますみ 上條 泰 土井 康正 小川 賢二 田中 悟 杉山 明人 田中 昭和 諸岡 桂 津津 裕史 竹田 昌人 羽山 直哉 近藤 由樹 中垣 敏明 黒田 敏一 河合 正好 中殿 英敏 山内 敦 柿本 浩子 廣重 賢一 橋口 賢 片畑 清 堤 誠治 永田 久 奥田 裕章 依本谷祐理子	松尾 繁利 大藤 伸治 戸川屋次朗 坪井 清貴 鬼木 重実 高野 正規 山本 信一 広瀬 江里 高橋 英樹 横手 幸夫 辻井 敏行 高島 学 宮崎由紀子 池田 正美 栗原 重彦 北村 昌彦 中村理恵美 山元 達央 山川 秀司 平阪 匡志 水野 昌民 山内 泰彦 高須 秀彦 齋藤 秀孝 稲山 毅 高木 中司 田中 創 岡野 太郎 笑福亭福福 高 哲弘 永島 重明 中原 俊二 渡辺 義久 榎本 展久 田代 隆明 安藤 政昭 山本 洋介 笠井 茂樹 白井 浩行	野間 洋 赤井 潤 赤井田夏彦 嘉村 博仁 齊藤 薫 小林 静樹 入山 晃 山田 正仁 田中 義克 土田 博之 杉山 功 水野 英治 加藤 三典 伊藤 祐広 高橋 義幸 小野山 淳 大野 将裕 井上 忠 竹辺 奏 岡 篤志 吉野 隆 中山 彰裕 松本 哲弥 竹辺 真 小松 晃 駒居 憲幸 高尾 雅之 小林 昭文 加藤 猛 橋本 孝生 柴崎 哲也 小林 清成 小笠原克紀 山内 悦夫 松本 泰彦 村橋 辰男 福岡 龍史 外山 徳彦 伊藤 篤 水谷 信也	杉田 幸憲 伊藤 嘉浩 大野 博昭 石田 広之 依田 清豪 吉田 和紀 辻 文孝 岩尾 昌浩 大野 宏継 佐渡 賢次 竹村 茂典 小宇都勝利 豊島 秀基 上野 一美 石投 哲也 北村 孝之 中尾 和仁 井手口弘徳 松本 哲弥 宇山 太郎 藤原 一弘 伊藤 剛史 廣瀬 聡毅 森仁 椎木 英樹 根岸 孝一 小野 実 伊藤 徳廣 辻 義久 岡野 勝仁 鈴木 一彦 三谷 元人 村上 誠児 伊藤 大輔 石井 洋	宮澤 謙作 中村 良美 竹内 誠一 塩田 勝美 増石 利明 吉田 英司 加藤 龍志 新 友里 片受 朋史 長村 英明 横川 徳成 水谷 寿紀 丸山 彰久 深本 健二 柴昭 栄 池田 英哲 前川 敏彦 水嶋 玲司 小川 桂一 中山 真澄 岡本 達也 大石 邦夫 渡辺 俊之 山室 健一 川端 智則 渡邊 幸恵 渡辺 保典 省三 秀史 大 田中 木岡 大 荻 俊雄 水口 拓	鴻原 弘樹 藤田 敏和 奥井英太郎 綿貫 秀紀 三苫 剛志 松井つかさ 平田 隆二 谷村 臣央 木田 幹郎 有川 浩 種口 昇三 大江 孝次 上田あかね 吉田 成美 岩田 利尋 遠田 雅一 植田 浩平 木下 正史 北野 剛生 中山 貴史 山本 一則 佐藤 正成 吉村 博信 小林健太郎 繁森 卓也 福田 俊 矢野 裕明 川中 涼 松本 和也 尾上 直士 片岡 淳一 南部 光男 舟橋 伸介 高橋 公樹 米倉 淳志 堀川 勝明 堀川 龍也 田邊 良幸 山田 裕一	石井 光幸 ●レスキュー 樹田 勝久 小野 浩行 前西 彰 上杉 耕二 熊谷真一郎 奥野 義広 原田 浩介 岡村 康弘 三村 朝実 新海 幸弥 四倉谷政幸 福垣 誠司 大江 伸行 中井 善則 岡本 崇 佐藤 峰生 渡辺 紳也 華山 英一 森 麻歎 山本 一夫 馬場和郎 柴田 亨 星野 和義 北村 辰二 角倉 尚弥 山田 康雅 宮井 法言 川島 里美 中台 道夫 中野 直樹 ●計時 牧野 真也 川崎 孝則 熊谷 正安 宮本 佳明 植野 弘則	乾 正巳 室賀恵都子 奥野 圭 池辺久美子 中村美枝子 兼松 智志 野村まゆみ 刀根かおる 津村 義則 岡村 重寿 安井美登梨 粟山 隆史 白杵 美和 日下部信司 安藤 邦彦 太田由美子 吉田 隆文 吉田 隆 小菅 孝幸 ●事務局 早田 尚代 桜井由紀子 淵本 孝代 国分さおり 吉田 隆文 北山 貴広 藤岡 良一 西川 智 山下 一郎 太田 潔 森嶋 猛 小林 猛 永田久美子 山田 幸代 清水 教子	石村 貴之 松本 修 上嶋 恵 伊倉 春美 白石 国元 西川 隆文 坂下 直美 福本みずよ 渡辺由美子 金子 隆 草川 美秀 寺田 明人 山田 隆 小菅 孝幸
--	---	---	--	--	--	--	---	--

発進!!全日本 スーパーバイク

全日本選手権シリーズ第1戦サンスタースーパーバイク100mile
スーパーバイククラスがついに全日本に発足する、記念すべき1戦だ
イコールコンディションを徹底したレギュレーションや
スーパーバイクに賭ける、参戦ライダーの華やかな顔ぶれから見ても
昨年までのTT F1クラスも凌ぐほどの激戦となるのは確実だ
それでは、レギュレーション、ライダー、マシンという要素から
このスーパーバイクのレースの見どころを紹介しよう

SUPER BIKE

START 14:00 28LAPS

●レース進行スケジュール▷ 8 ページ ●エントリーリスト▷ 21~23 ページ

Ready,

サンスタースーパーバイク100mile・プレビュー

GO!





興奮必至!! 全日本スーパーバイク

TT F1とどこが違う? スーパーバイク・レギュレーション

FIMは、94年より4ストロークレースをスーパーバイク・レギュレーションで一本化することを決定。これにより鈴鹿8時間耐久レースを含める世界耐久選手権シリーズもスーパーバイクへ移行することになった。この世界的な変革と符合し、全日本選手権においても93年をもってTT F1クラスが廃止、また、同時にGP500クラスの休止が決定したこともあって、全日本選手権の新しい最高峰カテゴリーとして、今年、全日本スーパーバイククラスが発足した。

エンジンのベースこそ一般市販車のものだが、中身は極限までのチューニングが可能だったTT F1の最大の問題点は、ランニングコストの高騰と、そこで生じる先鋭化したファクトリーマシンとプライベートターとの間の大きな戦闘力の差だった。これに対し、スーパーバイク・レギュレーションのコンセプトは、マシンの性能差を縮小し、勝負をライダーの実力にゆだねようというイコールコンディションの徹底。マシンに関して、厳しい規制が設けられているのだ。

具体的には、ファクトリーといえども市販車のフレームの使用が義務づけられている。これでTT F1時代にあった、まったくのオリジナルフレームのファクトリーマシンと、ノーマルフレームに手を加えただけのプライベートターとの大きな戦闘力の差が解消されることになる。また、交換パーツもMFJ公認のものに限られており、エンジンへの大幅なチューニングもできない。いかに軽量、ハイパフォーマンスを誇るパーツであっても、公認以外のは使用できないからだ。さらに、サスペンションへの負担の軽減、操縦性の向上など、あらゆる面においてラップタイムを削るための有効な手段となるマシンの軽量化にも規制が加えられている。4気筒マシン(400ccを越え750cc以下)160kg、2気筒マシン(550ccを越え1000cc以下)145kgという最低重量制限だ。これにより、ファクトリー、プライベートターを問わず、徹底的なイコールコンディション化を実現、よって全周に渡っての激しいバトルが期待できるのだ。

このように、出場するすべてのマシンに、

平等に勝つチャンスが与えられているスーパーバイク。さて、全日本選手権に新たなスタートを切ったこのクラスを制するのは、誰なのか! スーパーバイク元年の記念すべき第1戦。ここ鈴鹿で、まもなくスタートだ。

①カウリングの材質変更は可

ノーマルシルエットを維持すること、それはスーパーバイク・レギュレーションの重要なポイントだ。カウリングについても、市販車と同じノーマルシルエットを維持しなければならないが、これは、ウインカーやライト、ミラーなどの捕器類を取り外したシルエットを指し、その形状についてはベースマシンの段階で、レーシングユースを仮定した開発がされている。ただ、材質については一切の規定がなく、FRPにもカーボンにも変更可能だ。

②ラジエーターの容量アップはOK

レーシングユースにおいて、ラジエーターがノーマル状態のままでは冷却能力が低すぎる。そこで、ラジエーターの容量アップや外気導入の効率アップを図るわけだが、レギュレーションでは、ラジエーターの容量アップについては特に規制を設けていない。ただし、前述のようにノーマルシルエットを維持しなければならないので、カウリングの形状を変更したり、ベースマシンに存在しないダクトやエアスクープを新たに設けることはできない。

③ワークス系マシンはカーボンブレーキを装備が

重量が増したスーパーバイクでは、ブレーキにかかる負担が大きくなるのと同時に、ラップタイムを削るためにブレーキ性能が果たす役割が大きくなる。このブレーキについての規定は、ひとつのホイールに中心を共通にマウントされたひとつのブレーキがあれば、あとはどう手を加えても構わないという驚くほど簡単なものだ。恐らくワークスマシンは、ほとんどがカーボンブレーキを装着してくるだろう。

これが全日本SBマシンだ!



④フレームは材質、構造ともに変更不可

フレームは、その構造と材質の変更が禁止されている。さらに補強板やチューブ等の補強部材を追加することはできるのだが、ベースマシンに存在する補強部材を取り外すことは禁止されている。しかしこのあたりは、ノーマル段階でレーシングユースを見込んでの開発がされている。ちなみに、レギュレーションで定義されているフレームとは、ステアリング・ヘッドからリアのシート・サポートまでを指している。

⑤キャブレターは認可モデルのもののみ使用可

レギュレーションでは、燃料が直接燃焼室に注入される真のフューエル・インジェクションは認可されないが、マニホールド・タイプのはベースモデルに採用の量産ユニットであることを条件に認可される、と明記されている。つまりRC45は、認可されたマニホールド・タイプのインジェクションを装備しているわけだ。他にもバルブ数とポート数及び、キャブレターの口径、吸入システムを含む吸排気システムの仕様変更が禁止となっている。

⑥市販ノーマルエンジンがベース

エンジンに関しても、その型式、シリンダーの数、ピストンストローク、シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケース、ギアボックスの材質と鑄造(キャスト)の仕様変更は認められていないなど、厳しい規定が設けられている。その中で、仕様変更が可能なのは、クラスのリミットを越えない範囲ならボアアップができることや、ストック・パーツの研磨や軽量化などが挙げられる。

⑦タンクは外観がそのままなら、容量アップは可

レギュレーションでは、燃料タンクの最大容量は24ℓと規定されている。シルエットの変更ができないため、容量をアップさせる場合でも、外観はノーマル状態を保っていなければならない。ちなみにノーマルタンクの容量が18ℓしかないRC45の場合、タンクの底面に改造を行い、容量アップを図ることになる。また、燃料タンクのベンチレーション・パイプには燃料が流出するのを防ぐバルブ装置の装着が義務づけられている。

⑧改造範囲が比較的広い、サスペンション

サスペンションに関してはかなり改造範囲が広がっている。リアのショック・アップオーバーの変更(ただし同等のシステムを採用すること)や、取り付け位置の変更は可能。またフロントについてもオリジナルシステムを変更するのであればどのような改造もできる。また、スイングアームについては、長さを変更したり、補強部材を加えることもできる。サスペンションの仕上がりはマシンの戦闘力を決めるひとつのポイントとなりそうだ。

⑨素材はなんでもOKのサイレンサー

シリンダーとシリンダーヘッドの向きが変更できないため、ノーマルと同方向にしか排気できないこと、サイレンサー後端がリアタイヤの垂直接線より後ろであってはならないことを除けば、エキゾーストに関しての改造範囲は広い。レギュレーションでは、エキゾーストパイプ、サイレンサー、そしてその配列についての変更は可能と明記、素材については特に規定がない。あとはレース前後に測定される音量規定をクリアすればいいわけだ。

アメリカ生まれの スーパーバイク その歴史を ひもといてみよう

スーパーバイク。このレースの発祥の地はアメリカだ。歴史をさかのぼると、1970年初頭に西海岸を中心に行われていたクラブマンレースがルーツで、ビッグツインの市販車をベースにした改造マシンで争われるレースだった。その中のライダーのひとりに、スーパーバイクの創始者スティーブ・マクラグリンがいた。

1974年、マクラグリン提案のヘビーウェイト・プロダクションと呼ばれたクラスは、AMAのメインレース、フォーミュラ750クラスのサポートイベントとして開催されることになった。さらにAMAは、1975年のデイトナ200マイルレースのサポートイベントとしての開催を決定。そこで人気を集め、1976年よりスーパーバイクという新たな名称の下、ついにAMAのシリーズ戦として開催されることになった。

このAMAスーパーバイクは、これまでに次々と優秀なライダーを輩出してきた。エディ・ローソン、ウェイン・レイニー、ダグ・チャンドラー、スコット・ラッセルなど、歴代チャンピオンの顔ぶれを見るだけでも明らかだ。また、フレディ・スペンサーも無冠ではあるがローソンと数々の死闘を繰り広げ、AMAスーパーバイクをステップに世界に飛び出したライダーのひとりだった。

このAMAにチャレンジした日本人には辻本 聡がいる。全日本TT F1のタイトルを2年連続で決めた翌87年、辻本はAMAへのフル参戦を果たした。また最近ではカワサキの宗和孝宏がいる。宗和は92年に世界選手権スーパーバイクに参戦、93年にはAMAへ挑戦の舞台を移している。

一方、発足して今年で7年めになる世界選手権スーパーバイクは、これまで世界選手権TT F1、世界耐久選手権との3つの4ストロークレースの共存の中、一時は存続が危ぶまれることもあったが、今年、FIMが4ストロークマシンのレースをスーパーバイク・レギュレーションに一本化することを決め(全日本はFIMレギュレーションを範とする)、2サイクル主体の世界グランプリと並ぶシリーズとして、確立されることになった。さらに、4ストロークマシンを駆る全日本ライダーが求める、新しい挑戦の舞台としても注目を集めるだろう。



宗和は、93AMAスーパーバイクでランキング5位を獲得。

HONDA RVF/RC45



SBIに集結する トップライダー

TT F1→SB レースの主導権を握るか？



1 北川圭一

KEIICHI KITAGAWA

KAWASAKI ZXR750R

- 1967年3月24日(26歳)
- 京都府出身
- 90年国際A級昇格
- 91年鈴鹿8耐・4位入賞
- 92年全日本TT F1クラス・ランキング2位
- 93年全日本TT F1クラス・チャンピオン

「開幕戦は、ぜひ優勝して今シーズンに弾みをつけたいですね。シーズンオフに行ったオーストラリアでのテストで、マシンも良い状態に仕上がった感触を得ていますし、自分自身のコンディションもベストな状態で開幕戦を迎えることができます。期待しててください」

2 武石伸也

SHINYA TAKEISHI

HONDA RVF/RC45

- 1967年10月5日生まれ(26歳)
- 北広島出身
- 91年国際A級昇格
- 92年鈴鹿8耐・3位入賞
- 92年全日本TT F1クラス・ランキング3位
- 93年全日本TT F1クラス・ランキング2位

「開幕戦ということと、全日本スーパーバイク発足の第1戦めという記念すべきレースですから、ぜひとも良い成績を収めたいですね。必ず今回のレースは白熱の戦いになると思うので、お客さんにもこれまで以上に楽しんでいただけたと思います。応援よろしくお願いします」



8 吉川和多留

WATARU YOSHIKAWA

YAMAHA YZF750

- 1968年9月26日生まれ(25歳)
- 東京都出身
- 91年国際A級昇格
- 91年全日本TT F1クラス・ランキング9位
- 92年全日本TT F1クラス・ランキング9位
- 93年全日本TT F1クラス・ランキング8位

「昨年の最終戦から半年ぶりのレースですから、開幕戦はとにかくケガをしないように気をつけながら、少しずつ調子を上げていけるようなレースをしたいですね。マシンの方も順調に仕上がっています。今回のレースの目標ですか？ そうですね、悪くても10位以内です」

4 塚本昭一

SHOICHI TSUKAMOTO

KAWASAKI ZXR750R

- 1960年8月1日生まれ(33歳)
- 石川県出身
- 89年国際A級昇格
- 89年ル・マン24時間レース3位入賞
- 91年全日本TT F1クラス・ランキング5位
- 92年全日本TT F1クラス・チャンピオン
- 93年全日本TT F1クラス・ランキング4位

「今シーズンは、最初から行けるところでやって、テンションの高い状態でシーズンを通して戦えるようにしたいですね。開幕戦はもちろん、勝ちを狙いにいきますよ。マシンも自分自身も順調に仕上がっていますから、期待しててください」

3 永井康友

YASUTOMO NAGAI

YAMAHA YZF750

- 1965年10月29日生まれ(28歳)
- 東京都出身
- 89年国際A級昇格
- 91年全日本TT F1クラス・ランキング2位
- 92年全日本TT F1クラス・ランキング5位
- 93年全日本TT F1クラス・ランキング3位

「今年は開発が中心の参戦になります。実戦は、スポット参戦になると思う。スーパーバイクになって、重量面でセッティング出しが難しいですが、今年も最多勝を狙います。500からのライダーを泣かせたいですね」



GP250→SB トップ争いにもどう絡む？



54 鈴木 誠

MAKOTO SUZUKI

SUZUKI GSX-R750SPR

- 1964年7月17日生まれ(29歳)
- 静岡県出身
- 90年国際A級昇格
- 91年全日本IA-250クラス・ランキング24位
- 92年全日本GP250クラス・ランキング19位
- 93年全日本GP250クラス・ランキング9位

55 生見友希雄

YUKIO NUKUMI

SUZUKI GSX-R750SPR

- 1966年3月18日生まれ(27歳)
- 静岡県出身
- 87年国際A級昇格
- 91年全日本IA-250クラス・ランキング22位
- 92年全日本GP250クラス・ランキング11位
- 93年全日本GP250クラス・ランキング6位



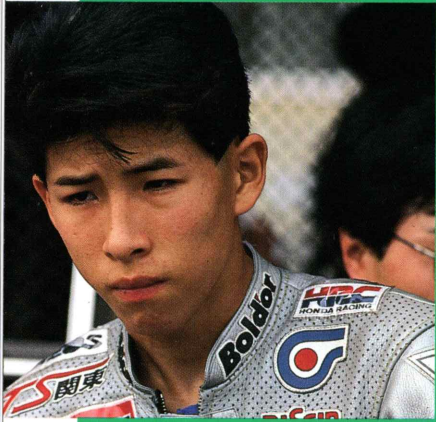
24 青木拓磨

TAKUMA AOKI

HONDA RVF/RC45

- 1974年2月24日生まれ(20歳)
- 群馬県出身
- 91年国際A級昇格
- 91年全日本IA-250クラス・ランキング13位
- 92年全日本GP250クラス・ランキング4位
- 93年全日本GP250クラス・ランキング2位

「開幕戦はあまり気張らず、表彰台を目標に精一杯頑張ります。ファンのみならず、ガッツのある走りも期待しててください。オーストラリアのテストでマシンの感触はしっかりつかんだし、自分のコンディションもグッド！です」



スーパーバイククラスのもうひとつの魅力は、何と言ってもトップライダーの競演だ。全日本のメインクラスがスーパーバイクとなり、国内のトップライダーがこぞってこのクラスに参戦。昨シーズンまでGP500、TT F1というそれぞれ別のクラスで戦ってきたトップライダーの面々が、同じ土俵に上がり、イコールコンディションの下でバトルを繰り広げるのだ。

では、その豪華な顔ぶれを見ていこう。まず、GP500からのスイッチ組では昨年チャンピオンの阿部典史。チームブルーフォックスから、HRCのサポートを受けてRVFを駆る。この若きヒーローがクラスを変えて2年連続のタイトル獲得なるか、要注目だ。対するヤマハからは、ファクトリー仕様のYZFを駆

る87~89GP500チャンピオンの藤原儀彦。これを迎え撃つのは、750モンスターを操る自信に満ちたTT F1ライダー勢だ。その筆頭が、93年・北川圭一、92年・塚本昭一と2年連続のTT F1チャンピオンを擁するカワサキ勢だ。また、ホンダ勢ではTT F1のエースライダー、武石伸也がHRCに移籍し、ファクトリーチューンの最新鋭RVFで、スーパーバイク元年のタイトル獲りに賭ける。そして、ヤマハからはTT F1のベテランライダー永井康友と、若手の吉川和多留が藤原と3人のファクトリー体制で臨んでくる。スズキは、昨年同様ラッキーストライクのサポートを受け、柳川 明がGSX-Rを駆る。ただし柳川はデイトナ遠征のため、今大会を欠場している。

これだけでもワクワクするような顔ぶれだが、ここにさらにGP250からのコンバート組が加わる。その筆頭が、カップヌードルホンダの青木拓磨。HRCサポートのRVFを手に入れ、チャンピオンに向かってまっしぐらの構えだ。青木は、93年鈴鹿8耐3位入賞という実績から見ても、4サイクル・ビッグマシンへの不安はまったくない。このようにスーパーバイククラスのグリッドは、全日本のトップライダーのオンパレードだ。各ライダーとも自分のライディングテクニックを100%発揮して、見応えのあるレースを披露してくれるはずだ。

GP500→SB 国内最速ライダーの座を賭けて!

32 阿部典史

NORIFUMI ABE

HONDA RVF/RC45

- 1975年9月7日生まれ(18歳)
- 東京都出身
- 93年国際A級昇格
- 93年全国GP500クラス・チャンピオン

「今年もチャンピオンを取りたいですけど、それよりもレース内容を充実させて、なるべく多く勝ちたいですね。開幕戦も勝てればいいけど、本番にならないと何とも言えないですね。とにかく一生懸命走りますので、最後まで応援してください」



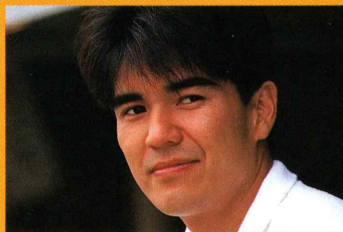
62 藤原儀彦

NORHIKO FUJIWARA

YAMAHA YZF750

- 1966年10月8日生まれ(27歳)
- 東京都出身
- 86年国際A級昇格
- 87~89年全国GP500クラス・チャンピオン
- 90・91年全国GP500クラス・ランキング2位
- 92・93年全国GP500クラス・ランキング3位

「第1戦から、もちろん全力でいきますよ。レースでも序盤から、ガンガン攻めていくつもりです。GP500時代から応援してくれてるファンのみなさん、スーパーバイククラスに移っても、引き続き応援よろしくお願いします。その期待に応えられるよう、精一杯頑張ります」



59 新 辰朗

TATSUROH ARATA

YAMAHA YZF750

- 1961年7月29日生まれ(32歳)
- 鳥取県出身
- 86年国際A級昇格
- 89年全国TT F1クラス・ランキング11位
- 92年全国GP500クラス・ランキング7位
- 93年全国GP500クラス・ランキング5位

71 岩橋健一郎

KENICHIROH IWAHASHI

HONDA RVF/RC45

- 1964年9月4日生まれ(29歳)
- 大阪府出身
- 87年国際A級昇格
- 90年全国TT F1クラス・チャンピオン
- 92年全国GP500クラス・ランキング6位
- 93年全国GP500クラス・ランキング4位



ベールを脱いだ 全日本SB仕様マシン

全日本スーパーバイククラスを戦う これがマシンのラインナップだ

今年から、新しく全日本に加わったスーパーバイククラスは、昨年までのTT F1に代わる、一般市販車を改造したマシンによるレースだ。フレームの改造がほとんど規制されていなかったTT F1クラスでは、改造マシンというよりも、改造が禁止されているパーツだけを市販車のエンジンから流用し、あとはスペシャルパーツで固めた“ワークスマシン”と呼ぶにふさわしいマシンが多かった。

それに比べ、レギュレーションで改造が厳しく制限されているスーパーバイククラスは、TT F1のようなメーカーの技術力の

粋を結集したワークス同士の争いではなく、アイデアと情熱を注ぎ込んでチューニングしたマシンでの戦いが展開されることになる。事実、全日本より先にスタートした世界選手権スーパーバイクでも、ワークスマシンに混ざって、小コンストラクターがチューニングしたプライベーターのマシンが多数出場、上位に入賞することも少なくない。

改造範囲の狭いスーパーバイクだけに、ベースマシンのポテンシャルは重要なポイントとなる。各メーカーはスーパーバイク移行の噂が流れてから、ベースマシンの開

発に心血を注ぎ、インジェクションの採用で注目を浴びたホンダRVFを筆頭に、ニューマシンを次々と登場させた。そして、各メーカーのワークスチューンマシンの他、ヨシムラやモリワキといったTT F1時代からの有力コンストラクターをはじめ、スーパーバイク仕様に近いマシンで全日本TT F1を戦ってきたプライベーター、そして、アメリカのスーパーバイクレース界で有名なマジー・ジャパンらが渾身の力をこめて仕上げたマシンが多数出場する。ここに世界選手権スーパーバイクで大活躍するドゥカティが絡み、ますます混戦は必至だ。

さて、28周で争われる今回のレース。計算上は必ず1度の給油が必要となるはずだが、インジェクション採用のホンダは無給油で走り切る作戦を取るとも言われている。もし本当にそれが可能なら、RVFは今大会で絶対的に有利な立場に立つことになる。給油ストップの有無。これがレースの鍵を握る重要なポイントなのだ。さて、RVFは無給油作戦を打って出るか？ 各チームはそれにどう対抗するのか、動向に注目だ。



SB仕様 HONDA RVF/RC45

最先端インジェクションシステムで武装

インジェクションシステムの採用で話題をさらったホンダRVF/RC45。先代のRC30をベースに、昨年までのワークスRVFで得たノウハウをそのまま注入した“公道を走れる市販レーサー”的な仕上がりを見せている。このRC45は、HRCのスーパーバイクレース用キットパーツも充実しているため、プライベーターのユーザーも多い。今回のレースで、いきなりポテンシャルの高さを示すことが予想され、もちろん優勝候補の最右翼は、武石が駆るHRCのワークスチューン車だ。



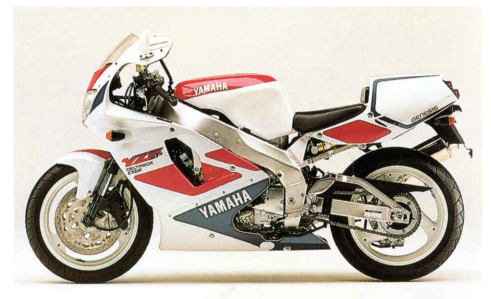
市販車 HONDA RVF/RC45



SB仕様 YAMAHA YZF750

多くのレースで鍛え抜かれた高性能車

ヤマハでは、スーパーバイクへの移行を前にして、昨年初めにワークスTT F1マシンのYZFをベースとするYZF750Rシリーズを発売。エンジンの基本はYZFやそのベースとなった先代FZR750R (OW01)と共通のため、多くのレースで鍛えられた完成度の高さとワークスYZFゆずりの高性能を誇る。ケイヒンのフラットCRキャブレターやクロスミッションなどを備えた市販レーサー的性格のYZF750SPにキットパーツを装着したマシンがベースとなる。



市販車 YAMAHA YZF750SP

トップライダー監督が語る 全日本スーパーバイク開幕を迎えて

マシン、チーム力とも心配ありません
 ヨシムラ・スズキ監督:吉村不二雄氏

今年はどこもゼロからのスタートですが、うちは限られた時間内の開発には自信がありますから。マシンが出来れば、あとはチーム力。この点に関して、まったく心配はないですね。ライダー、スタッフともこのシーズンオフに入れ替えをしたのですが、全員が「勝とう」という明確な、そして共通の目標を持ち、スムーズにコミュニケーションがとれました。78年の第1回鈴鹿8時間耐久を制したのは我がチーム、ビッグレースの最初を制するのは我がチームという神話に、さらに新しいページを加えたいと思っています。



ヨシムラのノウハウが施されたスズキGSX-R750SPR

キットパーツを積極的に開発
 モリワキ監督:森脇 護氏

スーパーバイクになっても、やはり今まで通り、ファクトリーチームがレースを引っ張ることになるでしょうね。もちろん、うちも頑張りますよ。今までも改善を求め続けてレースを戦ってきましたが、その姿勢はこれからも変わりません。

例えばエンジンに関して言えば、メーカーのキットパーツを基本に開発していますが、オリジナルのものも積極的に開発し、実戦に投入しようと考えています。同じものを使っている、それ以上を狙うことはできませんからね。ワークスイーターを狙い、今年も戦います!



R/VF/RC45 モリワキ・スーパーバイク仕様車

唯一のツインユニット、ドゥカティ

87年に登場した851系の水冷4バルブ・フェューエルインジェクション仕様車をルーツとするマシンが888で、90年には世界選手権スーパーバイクのチャンピオンを獲得。2気筒マシンにのみ許される1000ccまでの排気量のアドバンテージを生かしたマシン造りか特徴。世界選手権には916ccのニューマシンが登場の予定。



SB仕様 **DUCATI 888 RACING**



市販車 **DUCATI 888 RACING**

十分な先行開発で、信頼性抜群の仕上がりに

昨年の8耐で優勝、全日本TT F1でタイトルを獲得するなど、このところ市販車ベースのレースで好成績を収めているカワサキのマシンは、レーサーのベースマシンとして市販されている限定モデルのZX R750R。昨年までの全日本で、TT F1仕様のワークスマシンとともにスーパーバイク仕様車のテストも十分に行った(92年にはランキング2位を獲得)カワサキだけに仕上がりは良く、ワークスチューンのマシンは開幕戦からトップ争いに加わるだろう。



市販車 **KAWASAKI ZX R750R**

水冷化3年め。信頼性の向上がキーか?

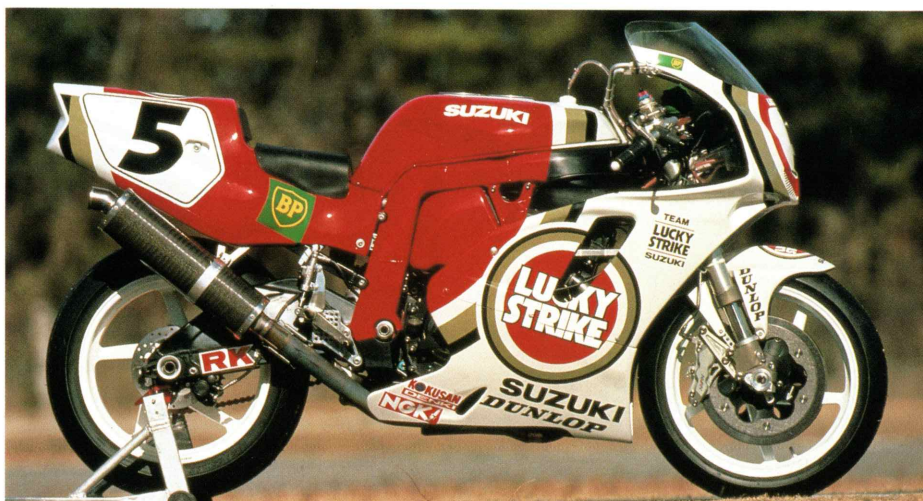
スズキのマシンはGSX-R750Rと呼ばれる、水冷化されて3シーズンめを迎える同社の一般市販車の限定バージョン。このクラスのベースマシンとしては唯一、ダブルクレードル形状のフレームを持つ。ワークスチューンのマシンは世界グランプリを走るRGV-Tと同じ新しいラッキーストライクカラーに塗られ、ひときり目立つ。スーパーバイクのマシン造りにも経験豊富なヨシムラは、スズキのマシンをベースに独自のチューニングで参戦する。



市販車 **SUZUKI GSX-R750R**



SB仕様 **KAWASAKI ZXR750R**



SB仕様 **SUZUKI GSX-R750W**

SUZUKA CIRCUIT MOTOR SPORTS

FIM'94ロードレース世界選手権シリーズ第3戦 マールボログランプリ・ジャパン

●開催日:4/22~24

●開催クラス:GP1(500cc)・GP2(250cc)・GP3(125cc)

世界最速の栄誉をかけて、選ばれたライダー達が15ヶ国を舞台にスーパーバトルを展開する世界グランプリ。いよいよその第3戦マールボログランプリ・ジャパン開催が間近にせまる。GP2の2年連続チャンピオンを狙う原田をはじめ、GP1の伊藤、GP3の坂田など日本人ライダーの活躍に期待大だ!!

■観戦券(消費税込み)前売り

前売券	券種	有効観戦日	大人(高校生以上)	子供(小・中学生)
	3日間通し券	4月22日(金)~24日(日)	12,000円	6,000円
決勝券	決勝日1日券	4月24日(日)	11,000円	5,500円
	公式予選日券	4月23日(土)	3,500円	1,700円

★決勝日当日券(4月24日(日)のみ有効) 大人14,000円、子供7,000円

※「決勝日当日券」は、前売り完売の場合は発売いたしません。※「公式予選日」の前売り券はオンラインチケット取扱店で発売いたします。

※観戦券の発売は4月21日(木)までとさせていただきます。決勝1日券は23日(土)まで、ただし、先着順発売のため完売次第発売を締め切ります。

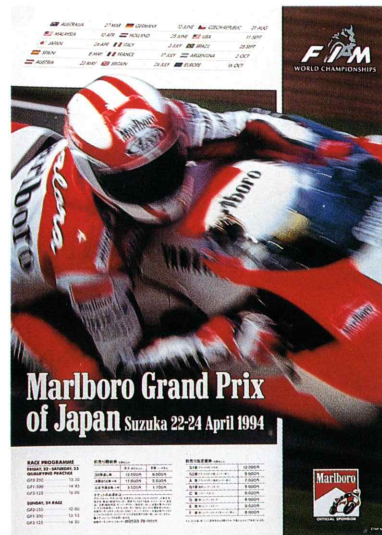
■指定席券(消費税込み)前売り

4月23日(土)・24日(日)有効

券種	S1席	S2席	A席	B1席	C席	D席	E席	F席
指定席券	12,000円	9,000円	7,000円	5,000円	6,000円	6,000円	9,000円	6,000円

※指定席券は、4月23日(土)予選日はエリア指定、4月24日(日)決勝日は座席指定となります。※観戦券別途必要。

※指定席券の発売は4月11日(月)までとさせていただきます。ただし先着順発売のため完売次第発売を締め切ります。



FIM'94世界耐久選手権シリーズ第3戦

"コカ・コーラ"鈴鹿8時間耐久ロードレース

●開催日:7/21~31

●開催クラス:スーパーバイク

世界耐久選手権のなかでも最も速く、最も苛酷と言われる鈴鹿8耐。今年もGPライダー、耐久スペシャリスト全日本ライダーが一堂に会して真夏の鈴鹿で熱戦が繰り広げられる。そして前夜祭をはじめとする数々のイベント、今年の夏もテントを積んでバイクででかけよう!!

■観戦券(消費税込み)

前売券	券種	有効観戦日	大人(高校生以上)	子供(小・中学生)
	8耐・4耐セット券	7月21日(木)~31日(日)	8,000円	4,000円
8耐通し4日券	7月28日(木)~31日(日)	7,000円	3,500円	
	7月21日(木)~24日(日)	3,200円	1,600円	

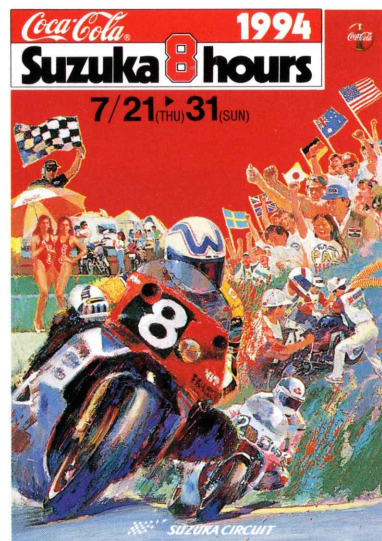
※7月21日(木)~22日(金)、25日(月)~28日(木)の各日は、遊園地入園料(中学生以上1,500円、3才~小学生800円)でご観戦いただけます。

■指定席券(消費税込み)

7月30日(土)・31日(日)2日通し券 ※指定席の発売は8耐のみ、4耐の指定席発売はありません。料金は大人・子供共通。

券種	S1席	S2席	A席	B1席	C席	D席	E席	F席
指定席券	10,000円	8,000円	6,000円	4,000円	5,000円	5,000円	8,000円	5,000円

※観戦券別途必要。※指定日以外は一般開放いたします。※3才以上の方は指定席券・入場券とも必要となります。



全日本F3000選手権シリーズ第1戦

ミリオンカードカップレース ラウンド1 鈴鹿

●開催日:3/19~20

●開催クラス:F3000・F3・FJ1600・CIVIC

全日本F3000の94年シーズンがいよいよ開幕する。93年のタイトル争いはまれに見る混戦で最終戦ファイナルラウンドまでもつれ込んだ。外国人ドライバーが台頭する中であって、タイトルを獲得したのは、見事に復調を果たしたベテラン星野一義であった。今シーズンも、ベテラン、若手入りみだれての混戦が予測される。その第1ラウンドはもう目の前だ。

■前売券(消費税込み)

観戦券		指定席券			
大人	子供	S1席	S2席	A席	E席
5,000円	1,600円	4,000円	2,000円	1,500円	2,000円



■前売券のお求めは

オンラインチケット取扱店、鈴鹿サーキットチケットセンター他でお求めください。

■お問い合わせは

鈴鹿サーキットチケットセンター 0593-78-1111(代)

鈴鹿サーキットが100%楽しめるぞ！

お得な特典もりだくさんの鈴鹿サーキットF1 G CLUB



F1 G CLUBカードだけのグレートな特典の数々。

エフワン ジー クラブ

F1チケットが必ず買える。

鈴鹿サーキットで開催されるビッグイベント「F1日本GP」の指定席券(観戦券付)2枚の優先購入権利が(チケット代金は別途必要)あります。入手が難しいF1チケットを確実に確保することができます。



パドックパスを20%割引。

レース当日発売のパドックパスを20%割引(本人のみ)。マシンやメカニック、ライダーの雰囲気を生で体感できるパドックでレースの臨場感もいっそう身近に。

遊園地で大いに遊ぶ。

レースの他にもお楽しみがイッパイ。鈴鹿サーキットおよび多摩テック遊園地の入場料を年間を通して無料サービスいたします。また、遊園地のりものパスポートを当カードご提示により1枚3,500円相当を2,500円にて販売いたします(本人+2名様まで)。



二輪世界選手権レースもオトク。

日本GPロードレース・鈴鹿8時間耐久ロードレースの一般観戦券を30%割引にて販売いたします(本人+2名様まで)。



ホテル・レストランご利用にもメリット。

鈴鹿サーキットホテルでのご宿泊および鈴鹿サーキット内レストランでのお食事代を10%割引にてご利用いただけます(カード決済時)。



レース観戦無料サービス。

鈴鹿サーキットで開催する全レース(F1日本GP・日本GPロードレース・鈴鹿8時間耐久ロードレースを除く)を入場無料(本人のみ)。また同伴者4名様までレース当日に前売り料金(約20%割引)にて販売いたします。

オリジナルグッズを10%割引。

Tシャツ、トレーナー、キャップなど鈴鹿サーキットオリジナルグッズを10%割引にて購入できます(カード決済時)。

会員特別プレゼント。

素敵なファンクラブオリジナルウェアのプレゼントがあります。

会員の皆様だけの各種イベントを開催。

- ◆年会費 55,000円(税込)
- ◆お申し込み資格
満20才以上の安定した収入のある方(学生を除く)

お問い合わせ

株式会社鈴鹿サーキットランド
鈴鹿サーキットF1 G CLUB事務局

三重県鈴鹿市稲生町7992 〒510-02

☎(0593)78-1111(代)

■ミリオンインフォメーションセンター

東京 …………… ☎(03)5276-7855
名古屋 …………… ☎(052)251-1220
大阪 …………… ☎(06)233-2403
受付時間 AM9:00~PM5:30



レースがあれば。



GETTAR 008

レーシングレベルのグリップ性を確保しながら、
耐摩耗性をもあわせて向上。

スーパースポーツ・ツアラー、GETTAR 008新登場。

- SIZE
- FRONT ● 110/70R17 54H・110/80R17 57H
120/60R17 55H
 - REAR ● 150/60R17 66H・160/60R17 69H
150/60R18 67H・140/70R17 66H
140/70R18 67H

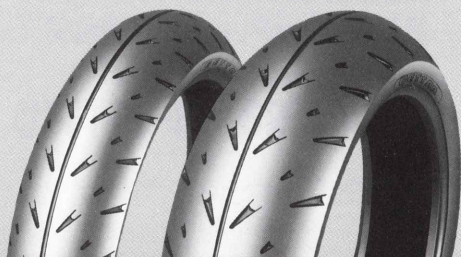
新開発ハイスポートコンパウンドを採用。あの「フルバンクグリップラー」007Aの、強大なドライグリップを受け継ぐと同時に、耐摩耗性をも大きくアップ。さらに、高い直進排水性を発揮するV字型方向性センターブロック。そして中間バンク時の排水性を高め、ウエットコーナリング性能を大きく向上させるブーメラン型スラントグループなど、排水メカニズムを徹底的にシミュレートした、YOKOHAMA独自のパターンテクノロジーをフィーチャ。GETTAR 008。それはサーキット直系のコーナリング性能を、そして優れたウエット性・耐久性をほしいままにする、進化型スポーツ・ツアラー。

スーパースポーツリアル
プロダクションレース用

007A

**RACING
SLICK 600**

**RACING
RAIN 610**



HIGH PERFORMANCE MC "RADIALS" FROM MOTORSPORT

GETTAR

SUPER BIKE

53台 決勝出走台数44台 決勝スタート 14:00 28周

No.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
1	北川 圭一 KEIICHI KITAGAWA	26	兵庫	カワサキ ZXR750R	K. R. T	DL	カワサキ		
2	武石 伸也 SHINYA TAKEISHI	26	三重	ホンダ RVF/RC45	am/pm HONDA RT	DL	HONDA		
3	永井 康友 YASUTOMO NAGAI	28	埼玉	ヤマハ YZF750SP	チームヤマハZau's	DL			
4	塚本 昭一 SHOICHI TSUKAMOTO	33	兵庫	カワサキ ZXR750R	K. R. T	DL	カワサキ		
6	大阪 賢治 KENJI OHSAKA	27	神奈川	カワサキ ZXR750R	チーム、シンスケ、SNK	DL	ジップモータープロ		
8	吉川 和多留 WATARU YOSHIKAWA	25	東京	ヤマハ YZF750SP	チームヤマハZau's	DL			
9	梁 明 AKIRA RYO	26	兵庫	カワサキ ZXR750R	チーム阪神ライディングスクール	DL	チーム阪神ライディングスクール		
10	井筒 仁康 HITOYASU IZUTSU	22	大阪	カワサキ ZXR750R	BEET IPONE OIL	BS	株日本ビート工業		
11	金安 智彦 TOMOHIKO KANEYASU	32	新潟	ホンダ RVF/RC45	TEAM KANEYASU	DL	TEAM KANEYASU		
12	和泉 美智夫 MICHIO IZUMI	26	大阪	カワサキ ZXR750R	BEET IPONE OIL	BS	株日本ビート工業		
13	小林 敏也 TOSHIYA KOBAYASHI	27	滋賀	ホンダ RVF/RC45	チーム桜井ホンダ	DL	株桜井ホンダ		
14	茂木 正人 MASATO MOGI	27	群馬	ヤマハ YZF750SP	KISSRT&スポーツライダー	DL	スポーツライダー		
18	前田 淳 JUN MAEDA	26	京都	ホンダ RVF/RC45		DL			
20	今井 伸一郎 SHINICHIROH IMAI	27	大阪	カワサキ ZXR750R	月木レーシング	DL	月木レーシング		
24	青木 拓磨 TAKUMA AOKI	20	群馬	ホンダ RVF/RC45	カップヌードルホンダ	MI	テクニカルスポーツ関東		
26	中田 雅夫 MASAO NAKATA	24	宮城	ヤマハ YZF750SP	COMレーシングチーム	BS	コムプロダクト株		
27	泉名 英男 HIDEO SENMYOH	28	埼玉	ホンダ VFR750R	向陽会ドリームレーシングチーム	YH			
30	宮崎 祥司 SYOHI MIYAZAKI	30	三重	カワサキ ZXR750R	TKRD				

ENTRY LIST

SUPER BIKE

No.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
32	阿部 典史 NORIFUMI ABE	18	東京	ホンダ RVF/RC45	team BLUE FOX	DL	BLUE FOX		
44	高橋 芳延 YOSHINOBU TAKAHASHI	26	兵庫	カワサキ ZXR750R	D. D. BOYS Racing	BS			
45	原口 祐二 YUJI HARAGUCHI	26	三重	ホンダ RVF/RC45	爽風会・鈴鹿レーシングチーム	DL	本田技研・鈴鹿		
46	深見 貴広 TAKAHIRO FUKAMI	23	三重	ヤマハ YZF750SP	クレバーウルフレーシングチーム	DL	クレバーウルフレーシング		
47	芹川 智明 SATOAKI SERIKAWA	31	熊本	ホンダ RVF/RC45	HONDA熊本レーシング	DL	本田技研工業株式会社熊本製作所		
48	大崎 隆一 RYUICHI OHSAKI	26	千葉	ホンダRVF/RC45	R. T. 韋駄天				
49	柳本 祥児 SYOHI YANAGIMOTO	27	京都	ヤマハ YZF750SP	SSかあさち&MY-R	BS			
50	小出 恵三 KEIZOH KOIDE	26	奈良	スズキ GSX-R750W	シマ・エンタープライズ 天理	BS	シマ エンタープライズ		
51	西田 浩工 HIROTADA NISHIDA	27	北海道	ホンダ RVF/RC45	くっちゃん未来21チームエラン	DL	レーシングガレージ ニワ		
52	赤木 哲也 TETSUYA AKAGI	22	静岡	ホンダ RVF/RC45	浜友会浜松エスカルゴ	DL	本田技研株式会社浜松製作所		
53	吉井 恭一 KYOICHI YOSHII	30	埼玉	ホンダ RVF/RC45	TEAM CBX	YH			
54	鈴木 誠 MAKOTO SUZUKI	29	東京	スズキ GSX-R750SPR	ヨシムラ・スズキ・GP1プラス	DL	株式会社ヨシムラ・ジャパン		
55	生見 友希雄 YUKIO NUKUMI	27	東京	スズキ GSX-R750SPR	ヨシムラ・スズキ・GP1プラス	DL	株式会社ヨシムラ・ジャパン		
56	平山 雅也 MASANARI HIRAYAMA	31	静岡	ヤマハ YZF750SP	YESS・磐田Rファミリー	BS	磐田レーシングファミリー		
59	新 辰朗 TATSUROH ARATA	32	東京	ヤマハ YZF750SP	伊藤園レーシング	DL	コンペティション ラボラトリー		
60	鶴田 竜二 RYUJI TSURUTA	27	愛知	カワサキ ZXR750R	TEAM MUZZYJAPAN	DL			
62	藤原 儀彦 NORIIKO FUJIWARA	27	静岡	ヤマハ YZF750SP	チームヤマハ Zau's	DL			
63	田中 陽 AKIRA TANAKA	28	静岡	ヤマハ YZF750SP	磐田レーシングファミリー		磐田レーシングファミリー		

No.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
66	川中 憲和 NORIKAZU KAWANAKA	28	大阪	ホンダ RVF/RC45	チームASA	DL	TNK エンジニアリング		
67	三輪 成正 SHIGEMASA MIWA	32	埼玉	ホンダ RVF/RC45	ブルーヘルメット・MSC	DL	HONDA		
68	原田 武 TAKESHI HARADA	27	福島	ヤマハ YZF750SP	TEAM T・H friends	DL	TEAM T・H friends		
69	加賀山 幸男 YUKIO KAGAYAMA	19	静岡	スズキ GSX-R750W	ラッキーストライク, スズキ	DL	スズキ		
70	芳賀 紀行 NORIYUKI HAGA	19	愛知	ドゥカティ 888	チーム・ファンデーション	YH	チーム・ファンデーション		
71	岩橋 健一郎 KENICHIROH IWASHASHI	29	大阪	ホンダ RVF/RC45	チーム桜井ホンダ	DL	株式会社 桜井ホンダ		
72	新井 秀也 SYUHYA ARAI	28	愛知	ホンダ RVF/RC45	チーム シンスケ SNK	DL	レーシングガレージ ニワ		
73	鈴木 義典 YOSHINORI SUZUKI	30	愛知	ヤマハ YZF750SP	R・T・二輪倶楽部	DL	RT 二輪倶楽部		
74	北尾 公二 KOHJI KITAO	28	兵庫	ホンダ RVF/RC45	ライダーズクラブ キタノ RT	DL			
75	三吉 昭夫 AKIO MITOMA	31	埼玉	ホンダ RVF/RC45	狭山レーシング	DL	本田技研むさしの会 狭山レーシング		
76	小林 裕樹 HIROKI KOBAYASHI	25	大阪	スズキ GSX-R750W	タキオンレーシングファクトリー		POWERレーシング&チーム コバヤシ		
77	高橋 英慎 HIDENORI TAKAHASHI	28	大阪	カワサキ ZXR750R					
79	大浦 審一郎 SHINICHIROH OHURA	27	大阪	ヤマハ FZR750R	BabyFace&S1R. RT		ベビーフェイス		
80	佐藤 幹 MOTOKI SATOH	20	大阪	カワサキ ZXR750R	月木レーシング	DL	(有)月木レーシング		
81	富田 正俊 MASATOSHI TOMITA	27	東京	ホンダ RVF/RC45	グランプリヒーロー&宝市		グランプリヒーロー		
91	椎名 明 AKIRA SHIINA	28	栃木	カワサキ ZXR750R	KTS湘南&T-CRAFT		T-CRAFT COMPETITION		
97	種岡 一吉 KAZUYOSHI TANEOKA	28	三重	ホンダ RVF/RC45	モリワキレーシング	DL	モリワキエンジニアリング		

ENTRY LIST

GP250

60台 決勝出走台数44台 決勝スタート 11:50 17周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
1	A	宇川 徹 TOHRU UKAWA	20	埼玉	ホンダ NSR250	TEAM HRC	BS	HONDA		
3	B	難波 恭司 KYOHJI NANBA	31	静岡	ヤマハ TZ250	チーム ヤマハ テクノ	DL	テクノ・モーターエンジニアリング		
4	A	匹田 禎智 SADANORI HIKITA	31	埼玉	ホンダ NSR250	ホンダ モトバムHIRYU. R	DL	モトバム HIRYU RACING		
5	B	沼田 憲保 NORIYASU NUMATA	27	静岡	スズキ RGV-I'250	ラッキーストライク・スズキ	DL	スズキ		
8	A	宮崎 敦 OSAMU MIYAZAKI	28	静岡	アプリリア RSV250R	TEAM DAYTONA	DL	㈱デイトナ		
10	B	森兼 正明 MASAAKI MORIKANE	26	埼玉	ホンダ RS250R	ENDURANCE	BS	エンデュランスレーシング		
14	A	丸山 浩 HIROSHI MARUYAMA	30	東京	ホンダ WM-01	ユニシア ジェックス・モトバム	BS	With me プロフェッショナルレーシング		
16	B	須貝 義行 YOSHIYUKI SUGAI	27	東京	ヤマハ TZ250	トレンド・レーシングパーティー	DL	スクーデリア ジャパン		
17	A	松戸 直樹 NAOKI MATSUDO	20	千葉	ヤマハ TZ250	SP忠男RT	YH	SP忠男		
18	B	藤原 克昭 KATSUAKI FUJIWARA	18	山口	ホンダ RS250R	テクニカルスポーツ関東	BS	テクニカルスポーツ関東		
19	A	近藤 靖典 YASUNORI KONDO	30	愛知	ヤマハ TZ250	Support Racing	DL	R・G Support TOSHIENGIN		
22	B	椿 洋 HIROSHI TSUBAKI	23	東京	ヤマハ TZ250	エキスパート レーシング	BS	エキスパート レーシング		
23	A	芳賀 健輔 KENSUKE HAGA	20	静岡	ヤマハ TZ250	チーム ヤマハ テクノ	DL	テクノ・モーターエンジニアリング		
24	B	野田 弘樹 HIROKI NODA	23	奈良	ホンダ RS250R	HIRYU RACING	DL	HIRYU RACING		
26	A	戸田 隆 TAKASHI TODA	30	東京	ホンダ RS250R		BS	スーパービルド マキシマム		
29	B	佐藤 雅彦 MASAHIKO SATOH	24	静岡	ヤマハ TZ250	TEAM TAIRA	DL	タイラレーシング株式会社		
30	A	梨本 圭 KEI NASHIMOTO	23	三重	ヤマハ TZ250	YET ² RACING ZEALS	DL	YET ² RACING ZEALS		
32	B	喜久川 光 HIKARU KIKUGAWA	26	広島	ヤマハ TZ250	チームYSP浜松北 K&T	DL	YSP浜松北ハセガワカンパニー		
37	A	富岡 裕昭 HIROAKI TOMIOKA	29	群馬	ヤマハ TZ250	チーム ALLMAN	YH			
39	B	松村 秀樹 HIDEKI MATSUMURA	26	宮城	ヤマハ TZ250	COMレーシングチーム	BS	コムプロダクト㈱		
40	A	谷内 勝 MASARU TANIUCHI	23	宮城	ヤマハ TZ250	COMレーシングチーム	BS	コムプロダクト㈱		
41	B	浜口 俊之 TOSHIYUKI HAMAGUCHI	23	愛知	ホンダ RS250R	HIRYU RACING	DL	HIRYU RACING		
43	A	土居 秀敏 HIDETOSHI DOI	25	奈良	ホンダ RS250R		MI			
46	B	小見山 昌之 MASAYUKI KOMIYAMA	26	岡山	ホンダ RS250R	TEAMコミコミ	DL	NAG: SED		
47	A	服部 孝昭 TAKAAKI HATTORI	24	三重	ヤマハ TZ250	MOTO STEP RT BP	DL	MOTO STEP RT BP		
48	B	川上 誠 MAKOTO KAWAKAMI	25	大阪	ヤマハ TZ250	レーシング ワールド 伊丹組	DL			
49	A	小峰 猛彦 TAKEHIKO KOMINE	24	兵庫	ヤマハ TZ250	YOU KOBE&Plego	BS	T. KOM RACING Co.		
50	B	金田 操 MISAO KANEDA	25	兵庫	ヤマハ TZ250					
51	A	薄井 まこと MAKOTO USUI	27	東京	ホンダ RS250R	レーシングチーム タクミ&岡崎				
52	B	田村 浩司 KOHJI TAMURA	23	京都	ホンダ RS250R	テクニカル スポーツ	BS	テクニカル スポーツ		

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
54	A	細口 政詞 MASATSUGU HOSOGUCHI	30	大阪	ホンダ RS250R	TEAMKILLINGSHOT		MAGU MAGU		
55	B	高橋 孝浩 TAKAHIRO TAKAHASHI	22	東京	ヤマハ TZ250	エキスパート レーシング	BS	エキスパート レーシング		
56	A	内川 正三 SYOZHOU UCHIKAWA	27	愛知	ヤマハ TZ250	KOTOBUKI&RAT'S	BS	KOTOBUKI&RAT'S		
57	B	岡田 孝則 TAKANORI OKADA	25	神奈川	ヤマハ TZ250	PP-1	DL	ペンタグラム		
58	A	武山 祐介 YUHSUKE TAKEYAMA	22	宮城	ヤマハ TZ250	NISSEKI &森のくまさん	BS	YRS 森のくまさん		
60	B	和田 信治 SHINJI WADA	25	東京	ホンダ WM-04	With me PRT モトバム				
62	A	小倉 直人 NAOTO OGURA	25	愛知	ヤマハ TZ250	IKKO RACING	DL	テクノギルド		
63	B	佐々木 雪人 YUKIHITO SASAKI	22	新潟	ホンダ RS250R	ルネス レーシング チーム	DL	ルネス かなざわ		
64	A	瀬野 宏 HIROSHI SENO	27	兵庫	ホンダ RS250R	TEAM. LIGHT. HIP				
65	B	前田 剛 TSUYOSHI MAEDA	33	京都	ヤマハ TZ250	COUPE・R・P				
66	A	尖戸 竹志 TAKESHI SHISHIDO	21	埼玉	ヤマハ TZ250	ブレイメイトレーシング	DL			
67	B	福山 英済 HIDEAKI FUKUYAMA	25	大阪	ヤマハ TZ250	木ノ実レーシング	DL			
68	A	前田 誠司 SEIJI MAEDA	23	大阪	ヤマハ TZ250	RC甲子園	DL	榊RC甲子園		
69	B	畠山 泰昌 YASUMASA HATAKEYAMA	19	兵庫	ホンダ RS250R	RT・PENGUIN	DL	PENGUIN MOTORS		
70	A	小合 将史 MASASHI OGO	23	大阪	ホンダ RS250R	RT・PENGUIN&TS	DL	PENGUIN MOTORS		
71	B	森 修一 SYUICHI MORI	23	愛知	ヤマハ TZ250	TEAM YDS YAMAHA	BS	TEAM YDS		
72	A	門田 祐二 YUJI KADOTA	24	三重	ヤマハ TZ250	BENEX&オートセンター福岡	DL	モトスポーツ アベ		
75	B	伊藤 英人 HIDETO ITO	27	新潟	ヤマハ TZ250	新潟TRC&YSP新潟中央	BS			
76	A	高野 博文 HIROBUMI TAKANO	28	埼玉	ヤマハ TZ250	ペンタグラム	DL	ペンタグラム		
77	B	川田 俊治 TOSHIHARU KAWADA	23	神奈川	ヤマハ TZ250	KISSRT&スポーツライダー	DL	YSP横浜旭&リトルガレージ		
78	A	大橋 智広 TOMOHIRO OHHASHI	27	福島	ヤマハ TZ250	MS梶ヶ谷レーシング				
79	B	加藤 大治郎 DAIJIROH KATO	17	埼玉	ホンダ RS250R	TEAM 高武	BS	RSC		
80	A	田村 典一 NORIKAZU TAMURA	27	静岡	ヤマハ TZ250	ブラックバンサーベネックス	YH			
81	B	青木 朋直 TOMONAO AOKI	20	山口	ヤマハ TZ250	TEAM YDS YAMAHA	BS	YDS		
85	A	大木 正和 MASAKAZU OHKI	26	山梨	ヤマハ TZ250	ペンタグラム		ペンタグラム		
86	B	竹中 伸浩 NOBUHIRO TAKENAKA	29	東京	ヤマハ TZ250	TEAM P.P-1	DL	ペンタグラム		
87	A	吉川 和宏 KAZUHIRO YOSHIKAWA	27	神奈川	ヤマハ TZ250	Team P・P-1	BS	ペンタグラム		
88	B	及川 玲 AKIRA OIKAWA	25	神奈川	ヤマハ TZ250	P-P-1	BS	ペンタグラム		
97	A	向井 準児 JUNJI MUKAI	24	奈良	ヤマハ TZ250	TEAM YDS				
98	B	福沢 巖 IWAO FUKUZAWA	25	東京	ヤマハ TZ250	TEAM・YSP町田中央	DL	YSP町田中央		

ENTRY LIST

GP125

95台 決勝出走台数44台 決勝スタート 10:30 15周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
4	A	菊池 寛幸 HIROYUKI KIKUCHI	28	京 都	ホンダ RS125R	チームウイリー	DL			
5	B	天野 邦博 KUNIHICO AMANO	24	東 京	ホンダ RS125R	オーエックス レーシングチーム	DL	OXレーシング		
6	A	浅見 昌行 MASAYUKI AZAMI	29	群 馬	ホンダ RS125R	カンナオートR&藪塚BC	DL	KOBA ENG		
7	B	高尾 和弘 KAZUHIRO TAKAO	25	愛 知	ホンダ RS125R	チーム フジワラ	BS	テクニカルモーター藤原		
8	A	藤崎 直之 NAOYUKI FUJISAKI	24	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky Racing	DL	ラ.モト.コウサカ		
9	B	宮坂 賢 KEN MIYASAKA	23	東 京	ホンダ RS125R	Jhaレーシング	DL	Jha レーシング		
11	A	水野 生久 IKUHISA MIZUNO	25	愛 知	ホンダ RS125R	チーム・FEED KOHSAKA	DL	高阪 一夫		
13	B	鵜飼 孝徳 TAKANORI UKAI	24	三 重	ホンダ RS125R	GREEN FARM	DL	レーシングガレージ・ニワ		
14	A	一宮 義文 YOSHIFUMI ICHIMIYA	26	三 重	ホンダ RS125R	カストロールT, ハルク・プロ	BS	HARC-PRO		
15	B	檜尾 幸穂 YUKIHO HINOKIO	29	三 重	ホンダ RS125R	ライダーズサロン横浜, BP	DL	ライダーズサロン		
16	A	稲毛田 潤 JUN INAGEDA	27	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky Racing	DL	KOHSAKA		
17	B	山本 武宏 TAKEHIRO YAMAMOTO	28	大 阪	ホンダ RS125R	Castrol, Tハルクプロ	BS	HARC-PRO		
18	A	菅谷 慎一 SHINICHI SUGAYA	21	東 京	ホンダ RS125R	ALICE&HARC-PRO	BS	HARC-PRO		
19	B	坂本 博之 HIROYUKI SAKAMOTO	23	東 京	ヤマハ TZ125	TTファクトリー&タカクスポート	BS	タカクスポート		
20	A	佐藤 昭仁 AKIHITO SATOH	23	東 京	ホンダ RS125R	ライダーズサロン横浜 BP	DL	ライダーズサロン横浜		
21	B	上江州 克次 KATSUJI UEZU	19	愛 知	ヤマハ TZ125	J.レーシング	YH	J.レーシングプロジェクト		
22	A	小澤 敏明 TOSHIKI OZAWA	23	埼 玉	ホンダ RS125R	ENDURANCE	BS	エンデュランスレーシングチーム		
24	B	佐藤 慎也 SHINYA SATOH	23	神奈川	ヤマハ TZ125	M-MAX&M'PROJECT/	DL	M'PROJECT		
25	A	和田 欣也 KINYA WADA	31	高 知	ホンダ RS125R	高知Rクラブ&オフィスポチ	DL			
26	B	清水 隆男 TAKAO SHIMIZU	25	東 京	ヤマハ TZ125	EAST CORE	DL	EAST CORE		
27	A	太田 英治 EIJI OHTA	27	三 重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム	DL	本田技研工業株爽風会 鈴鹿		
28	B	秋山 恵利香 ERIKA AKIYAMA	22	静 岡	ホンダ RS125R	TEAM IVY	BS			
29	A	高橋 桃子 MOMOKO TAKAHASHI	20	神奈川	ホンダ RS125R	Jレーシング	YH	Jレーシングプロジェクト&ハルクプロ		
30	B	市川 文和 FUMIKAZU ICHIKAWA	28	茨 城	ホンダ RS125R	テキサス・インスツルメンツRT	DL	レーシングサブライファルコン		
32	A	上野 秀昭 HIDEAKI UENO	27	愛 知	ヤマハ TZ125	Support Racing	DL	R・G Support TOSHI Engin		
34	B	金井 雅明 MASAAKI KANAI	25	茨 城	ヤマハ TZ125	Fine Racing	DL	Fine Racing+ REAL MAGIC		
35	A	藤原 優 YUH FUJIWARA	29	東 京	ヤマハ TZ125	オートボーイSP		Mプロジェクト		
37	B	安田 辰彦 TATSUHIKO YASUDA	23	三 重	ホンダ RS125R	チーム フジワラ	BS	テクニカルモーター フジワラ		
40	A	大塚 勇二 YUJJI OHTSUKA	24	神奈川	ホンダ RS125R	TEAM-TAKAGI	BS	タカギ レーシング リサーチ		
46	B	稲垣 幸則 YUKINORI INAGAKI	26	三 重	ホンダ RS125R	Team BATTLE.	DL	バトルファクトリー		
47	A	羽鳥 誠 MAKOTO HATORI	21	群 馬	ホンダ RS125R	RTアカギ&プレススポーツ	YH	RTアカギ&池戸エンジン		
48	B	頼谷 尚之 HISAYUKI YORIYA	18	愛 媛	ホンダ RS125R	ヨリヤレーシングプロジェクト	DL	TMフジワラ		

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
49	A	米井 茂之 SHIGEYUKI YONEI	22	東京	ホンダ RS125R	Team FUNNY		i-Factory		
50	B	松本 卓 MASARU MATSUMOTO	21	神奈川	ホンダ RS125R		DL	小柳孝博		
51	A	吉岡 悟 SATORU YOSHIOKA	29	兵庫	ホンダ RS125R	TEAM SANSHIN		テクニカルモーター フジワラ		
52	B	藤岡 祐三 YUHZOH FUJIOKA	20	愛媛	ホンダ RS125R	Teamフジオカ	DL			
53	A	宮上 直之 NAOYUKI MIYAGAMI	26	大阪	ホンダ RS125R	チームフジワラ	BS	テクニカルモーター フジワラ		
54	B	水久保 健二 KENJI MIZUKUBO	29	広島	ヤマハ TZ125	IRacingとリアルバランス	DL	IRacing 福山		
55	A	亀作 和哉 KAZUYA KAMESAKU	27	愛知	ヤマハ TZ125	IKKO RACING	DL	テクノギルド		
56	B	宇井 陽一 YOHICHI UI	21	千葉	ヤマハ TZ125	TEAM TAIRA	DL	タイラレーシング株式会社		
57	A	大崎 誠之 NOBUYUKI OHSAKI	23	福岡	ヤマハ TZ125	テクノギルドレーシングチーム	DL	テクノギルド		
58	B	片平 光浩 MITSUHIRO KATAHIRA	30	千葉	ホンダ RS125R	レーシングサプライ 勅斗雲&百歩	DL			
59	A	庄司 賢治 KENJI SHOJI	26	東京	ホンダ RS125R	プロテックレーシング&ウルトラ				
60	B	武藤 俊二 SHUNJI MUTOH	26	愛知	ホンダ RS125R	チーム KOHSAKA	DL	高阪 一夫		
61	A	龍 義雄 YOSHIO RYUH	27	三重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム	DL	本田技研工業株爽風会		
62	B	菊池 克徳 KATSUNORI KIKUCHI	26	東京	ヤマハ TZ125	KEY COFFEEスガノRT	DL	スガノレーシング		
63	A	佐々木 洋一 YOICHI SASAKI	22	大阪	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング	DL	横井エンジニアリング		
64	B	山下 一彰 KAZUAKI YAMASHITA	30	静岡	ホンダ RS125R		DL	TEAM YAMASHITA		
65	A	松岡 純 JUN MATSUOKA	26	東京	ヤマハ TZ125	EAST CORE	DL	EAST CORE		
66	B	中村 公彦 KIMIHIKO NAKAMURA	28	広島	ヤマハ TZ125	レーシングチーム広島	DL	プリミティブ		
67	A	真子 智実 TOMOMI MANAKO	21	佐賀	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツとカーハウス	BS	ホンダワールド		
68	B	富田 信道 NOBUMICHI TOMITA	26	栃木	ホンダ RS125R	オートテクニクスステーキらしく	DL			
69	A	南 昌幸 MASAYUKI MINAMI	24	神奈川	ホンダ RS125R	HARC-PRO&AZUMA	BS	HARC-PRO		
70	B	佐々木 孝太 KOHTA SASAKI	21	三重	ホンダ RS125R	柳可精機RACING TEAM	DL			
71	A	林 達也 TATSUYA HAYASHI	21	東京	ホンダ RS125R	TEAM. ALICE	BS	HARC-PRO		
72	B	稲葉 良 RYOH INABA	24	東京	ヤマハ TZ125	ALICE&YSP町田中央	BS			
73	A	森 直樹 NAOKI MORI	25	東京	ヤマハ TZ125	TEAM. ALICE	BS			
74	B	東 雅雄 MASAO AZUMA	22	高知	ホンダ RS125R	チームフジワラ	BS	テクニカルモーターフジワラ		
75	A	飯室 英治 EJI IIMURO	25	東京	ヤマハ TZ125	KISSRT&スポーツライダー	BS	YSP横浜旭&飯室自動車		
76	B	森 親臣 CHIKAOMI MORI	26	熊本	ホンダ RS125R	Team高武with RSC	BS			
77	A	秋田 貴志 TAKASHI AKITA	20	神奈川	ホンダ RS125R	ALICE&HARC-PRO	BS	HARC-PRO		
78	B	柄沢 幹 MIKI KARASAWA	24	岐阜	ホンダ RS125R	チームCENTRAL		ブルーフォックス		
79	A	吉沢 隆 TAKASHI YOSHIZAWA	25	神奈川	ヤマハ TZ125	ペンタグラム		ペンタグラム		
80	B	谷川 壮洋 TAKEHIRO TANIGAWA	28	栃木	ホンダ RS125R	プロスキル&RPタニガワ&aZ	BS	プロスキルパーツ		

ENTRY LIST

GP125

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	コンストラクター	予選 順位	決勝 順位
81	A	松井 正一 SYOICHI MATSUI	38	三重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム	DL	本田技研工業株爽風会		
82	B	泉 洋一 YOICHI IZUMI	25	茨城	ホンダ RS125R	チーム フジワラ	BS	テクニカルモーター フジワラ		
83	A	佐藤 光輝 KOHKI SATO	24	東京	ホンダ RS125R	TEAM TAKAGI	BS	タカギレーシングリサーチ		
84	B	伊東 哲 SATOSHI ITO	26	東京	ホンダ RS125R	RACINGSUPPLY勲斗雲	DL	RACING SUPPLY		
85	A	猿楽 明太 AKIHIRO SARUGAKU	26	静岡	ホンダ RS125R	チームモトフレンド&ワコーズ	DL			
86	B	丹生谷 剛 TSUYOSHI NYUUNOYA	25	京都	ホンダ RS125R	チーム ウイリー	DL			
87	A	岡村 崇規 TAKANORI OKAMURA	23	三重	ホンダ RS125R	チームフジワラ	BS	テクニカルモーター フジワラ		
88	B	辻村 猛 TAKESHI TSUJIMURA	19	大阪	ホンダ・ワールド AC23	FCCテクニカルスポーツ	BS	テクニカルスポーツ		
89	A	谷 信行 NOBUYUKI TANI	24	大阪	ヤマハ TZ125	RC甲子園	DL	RC甲子園		
90	B	中田 健二 KENJI NAKATA	26	奈良	ホンダ RS125R	Jhaレーシング&Task	DL	城北ホンダオート		
91	A	原田 伸也 SHINYA HARADA	22	千葉	ヤマハ TZ125	SP忠男レーシングチーム	YH	SP忠男		
92	B	坂之下 孝秀 TAKAHIDE SAKANOSHITA	26	三重	ヤマハ TZ125	モトミットYSP岡崎中央				
93	A	大橋 文昭 FUMIAKI OHHASHI	26	新潟	ホンダ RS125R	長岡テクニカルSANYO&ベア	DL	ベアレーシング新潟 板井三七一		
94	B	山下 祐 YUH YAMASHITA	25	神奈川	ヤマハ TZ125	サムシステム&M'-PRO./	DL	M'-PROJECT./		
95	A	渡辺 慎二 SHINJI WATANABE	24	東京	ホンダ RS125R	オートボーイMrドーナツ浅草店		藤原 優		
96	B	大屋 徹 TOHRU OHYA	25	新潟	ホンダ RS125R	チームカネヤス&大屋合成	DL	TEAM KANEYASU		
97	A	松永 弘志 HIROSHI MATSUNAGA	20	千葉	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ関東	BS			
98	B	若松 宏希 HIROKI WAKAMATSU	25	東京	ホンダ RS125R	RCドラスティック&ミズシマノ	DL	RCドラスティック!!池田 隆恵		
99	A	中田 靖士 YASUSHI NAKATA	29	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ&P. JIN	BS	テクニカルスポーツ		
100	B	永野 勉 TSUTOMU NAGANO	25	京都	ホンダ RS125R	チームウイリー	DL	SBSウィリー宇治		
101	A	坂西 博光 HIROMITSU SAKANISHI	23	三重	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング	DL	横井エンジニアリング		
102	B	早原 邦顕 KUNIAKI HAYAHARA	23	三重	ホンダ RS125R	Team BATTLE	DL	BATTLE FACTORY		
103	A	木村 彰成 AKINARI KIMURA	27	埼玉	ホンダ RS125R	ENDURANCE	BS	エンデュランス レーシングチーム		
104	B	渡部 伸 SHIN WATANABE	23	埼玉	ホンダ RS125R	狭山レーシング	DL	本田技研むさしの会狭山レーシング		
105	A	水戸 健一 KENICHI MITO	25	広島	ホンダ RS125R	モトワークス & TMフジワラ	DL	テクニカルモーター藤原		
106	B	西山 智 SATOSHI NISHIYAMA	24	兵庫	ホンダ RS125R	Bad Boy Racing	DL			
107	A	池田 知巳 TOMOMI IKEDA	24	熊本	ホンダ RS125R	Team高武with RSC	BS	チーム高武		
108	B	鶴岡 勝宏 KATSUHIRO TSURUOKA	29	神奈川	ヤマハ TZ125	タイヤショップ・モトブロス横浜	BS	チーム モトブロス ファミリー		
109	A	佐藤 としゆき TOSHIYUKI SATOH	30	東京	ヤマハ TZ125	チームケーユー&トレンドRP	DL	としゆきwithスズキ エンジニアリング		
110	B	上本 光博 MITSUHIRO KAMIMOTO	23	奈良	ホンダ RS125R	テクニカルS&WINGROAD	BS	テクニカルスポーツ		
111	A	上田 昇 NOBORU UEDA	26	愛知	ホンダ RS125R	GIVIRACING野島ENG	DL	ノジマエンジニアリング		

NB-GP125

174台 決勝出走台数44台 決勝スタート 15:50 10周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	A	水弘 晋 SUSUMU MIZUHIRO	23	奈良	ホンダ RS125R	F28 KANDANI	BS		
2	A	高橋 浩二 KOHJI TAKAHASHI	22	三重	ホンダ RS125R	モリワキ クラブ	DL		
3	A	井上 寛崇 HIROTAKA INOUE	23	三重	ホンダ RS125R		DL		
4	A	作田 友哉 TOMOYA SAKUDA	18	三重	ホンダ RS125R	FASTRACINGTEAM	DL		
5	A	西川 善則 YOSHINORI NISHIKAWA	23	三重	ヤマハ TZ125	YET RACINGZEALS	DL		
6	A	溝口 真弘 MASAHIRO MIZOGUCHI	19	三重	ヤマハ TZ125		DL		
7	A	吉田 英司 ELJI YOSHIDA	22	三重	ホンダ RS125R	TEAM S. K. R	DL		
8	A	横山 歩 AYUMU YOKOYAMA	24	愛知	ホンダ RS125R	RAYS豊橋RP	DL		
9	A	武井 孝治 KOHJI TAKEI	23	愛知	ホンダ RS125R	RTヨシハル&マックスケミカル	DL		
10	A	藤岡 優 MASARU FUJIOKA	23	奈良	ホンダ RS125R	ちいむ♡みどんこ&ウシロイ	DL		
11	A	米田 拓也 TAKUYA YONEDA	22	京都	ホンダ RS125R	チームデグナー&RP総門口	DL		
12	A	河井 洋知 HIRONORI KAWAI	23	滋賀	ヤマハ TZ125	RC甲子園	DL		
13	A	大家 正彦 MASAHIKO OHYA	20	三重	ホンダ RS125R	ITO&RALLY R・T	DL		
14	A	田中 康雄 YASUO TANAKA	26	大阪	ホンダ RS125R	TEAM DONGAME	DL		
15	A	水沼 進次 SHINJI MIZUNUMA	22	三重	ヤマハ TZ125	RC甲子園	DL		
16	A	若森 敏弥 TOSHIYA WAKAMORI	24	三重	ホンダ RS125R	RTStuckBoyRRの部	DL		
17	A	カワカミ 智彦 TOMOHIKO KAWAKAMI	20	三重	ヤマハ TZ125	☆SUPPORT RACING	DL		
18	A	山下 尚 TAKASHI YAMASHITA	22	三重	ホンダ RS125R	SuzukaRiverSide	DL		
19	A	伊達 克磨 KATSUMA DATE	22	愛知	ホンダ RS125R		DL		
20	A	田中 照二 SYOJI TANAKA	24	大阪	ホンダ RS125R	ヨシイレーシング	DL		
21	A	荒川 一市 KAZUICHI ARAKAWA	25	三重	ホンダ RS125R	☆チャリオッツby吉峯製作所☆	BS		
22	A	西 誠也 SEIYA NISHI	21	三重	ホンダ RS125R	FASTレーシングチーム	DL		
23	A	村尾 達史 SATOSHI MURAO	24	三重	ホンダ RS125R	大阪村尾組と東工務店&IMPS	BS		
24	A	足立 英一 EIICHI ADACHI	22	京都	ホンダ RS125R	SRミニマム クシタニ京都	DL		
25	A	山本 和俊 KAZUTOSHI YAMAMOTO	25	静岡	ホンダ RS125R	焼津レーシング&WAKO'S	DL		
26	A	水谷 礼人 AYATO MIZUTANI	21	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ	DL		
27	A	岡本 康敬 YASUHIRO OKAMOTO	21	三重	ホンダ RS125R	RACINGTEAMRISKY	DL		
28	A	金子 忠信 TADANOBU KANEKO	23	愛知	ホンダ RS125R		DL		
29	A	増尾 洋 HIROSHI MASUO	24	岐阜	ホンダ RS125R	岐阜KANILEレーシング&木の実			
30	A	増田 麻衣 MAI MASUDA	17	静岡	ヤマハ TZ125	TEAM モトスポーツ&鈴覚	DL		
31	A	伊藤 真行 MASAYUKI ITO	17	奈良	ホンダ RS125R	クレイジーアローワークスムカイ	DL		
32	A	和田 盟浩 TOMOHIRO WADA	20	京都	ホンダ RS125R	RTびいたあばん	DL		
33	A	箱田 雅裕 MASAHIRO HAKODA	25	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ	BS		
34	A	稲田 恭也 YASUNARI INADA	20	三重	ホンダ RS125R	FASTRACINGTEAM	DL		
35	A	春日井 裕之 HIROYUKI KASUGAI	22	三重	ホンダ RS125R	深津クレーン・BRC関西	BS		
36	A	坂本 真一 SHINICHI SAKAMOTO	19	三重	ホンダ RS125R	チームヨシハル	DL		
37	A	石崎 秀信 HIDENOBU ISHIZAKI	22	大阪	ホンダ RS125R		DL		
38	A	長谷川 洋介 YOSUKE HASEGAWA	24	大阪	ホンダ RS125R	SWIFTRACING	DL		
39	A	高須 康彰 YASUAKI TAKASU	25	静岡	ホンダ RS125R	チームモトフレンド&モトアップ	DL		
40	A	堀 健二 KENJI HORI	25	大阪	ヤマハ TZ125	アゲインレーシングプラザでちゅ	DL		
41	A	篠木 道夫 MICHIO SHINOBI	21	三重	ホンダ RS125R	RACINGTEAMRISKY	DL		
42	A	中島 裕幸 HIROYUKI NAKASHIMA	23	愛知	ホンダ RS125R	Jレーシングチーム	DL		
43	A	松川 泰典 YASUNORI MATSUKAWA	19	京都	ホンダ RS125R	黒だぬきの会	DL		

—'94鈴鹿サンデーロードレース第3戦 ご協賛各社—

株式会社 アールケー・エキセル	カスタロール 株式会社	株式会社 ブリヂストン
株式会社 アライヘルメット	有限会社 Jレーシングプロジェクト	ベトルブインターナショナル 株式会社
株式会社 オートリメッサ	住友ゴム工業 株式会社	ミシュラン・オカモトタイヤ 株式会社
大森商事 株式会社	日本特殊陶業 株式会社	(五十音順)

●NB-GP125の見どころ▷39ページ
 ※タイヤメーカー名略称/BS:ブリヂストン、DL:ダンロップ、YH:ヨコハマ
 ※ゼッケンは予選用です。決勝とは異なります。

ENTRY LIST

NB-GP125

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	B	関 浩之 HIROYUKI SEKI	25	静岡	ホンダ RS125R	TEAM JUBET	DL		
2	B	佐藤 孝夫 TAKAO SATO	25	愛知	ホンダ RS125R	スパイラル・レーシング	DL		
3	B	松村 一人 KAZUTO MATSUMURA	19	三重	ホンダ RS125R	ITO&ラリーレーシングチーム	DL		
4	B	衣川 大祐 DAISUKE KINUGAWA	20	三重	ホンダ RS125R	SURGE RACING 豊栄	DL		
5	B	吉岡 秀晃 HIDEAKI YOSHIOKA	22	三重	ホンダ RS125R		DL		
6	B	小林 周三 SYUHZOH KOBAYASHI	22	三重	ホンダ RS125R		DL		
7	B	高橋 博 HIROSHI TAKAHASHI	27	三重	ホンダ RS125R	MIURA. R. P&T. T. J			
8	B	中村 直樹 NAOKI NAKAMURA	23	長野	ホンダ RS125R	YSP松本RF・美すゞ運転代行	DL		
9	B	原 敦 ATSUSHI HARA	24	奈良	ホンダ RS125R	HARC-PRO&AZUMA			
10	B	赤坂 直紀 NAOKI AKASAKA	24	愛知	ヤマハ TZ125	B&WKATOレーシングチーム	DL		
11	B	下津 秀夫 HIDEO SHIMOTSU	25	和歌山	ホンダ RS125R	よろずオート&POWER・RT	DL		
12	B	綱田 覚 SATORU TSUNADA	26	愛媛	ヤマハ TZ125	山之内右文堂・コスモス四国	DL		
13	B	角 健二 KENJI SUMI	21	滋賀	ホンダ RS125R		DL		
14	B	埜田 健太郎 KENTAROH NODA	22	大阪	ホンダ RS125R	リアライズレーシング	DL		
15	B	隣 淳二 JUNJI TONARI	25	愛知	ヤマハ TZ125	横浜緑園HOT-1&YSP刈谷	DL		
16	B	近藤 英俊 HIDETOSHI KONDOH	20	滋賀	ヤマハ TZ125	フライング ネックブリーカー	DL		
17	B	太田黒 勝 MASARU OHTAGURO	23	三重	ホンダ RS125R	チーム モトスペース	DL		
18	B	鈴木 一知 KAZUTOMO SUZUKI	23	静岡	ヤマハ TZ125	☆ブラックパンサーRT☆	BS		
19	B	田幸 良之 YOSHIYUKI TAKOH	25	静岡	ホンダ RS125R	チーム モトフレンド	DL		
20	B	落合 康志 YASUSHI OCHIAI	21	三重	ホンダ RS125R	TEAM CHARIOTS!!	BS		
21	B	吉岡 尚 TAKASHI YOSHIOKA	20	三重	ホンダ RS125R	Team BATTLE	DL		
22	B	秋元 恭二 KYOHJI AKIMOTO	28	神奈川	ホンダ RS125R	我流風呼RACING五十嵐建設	DL		
23	B	池戸 幸二 KOHJI IKEDO	23	三重	ヤマハ TZ125	BAGUSRACING&DIJ	DL		
24	B	大藤 道雄 MICHIO OHTO	21	三重	ホンダ RS125R	D'S SUZUKA&ブリヂストン	BS		
25	B	富永 宏行 HIROYUKI TOMINAGA	22	三重	ヤマハ TZ125	RC甲子園 BP	DL		
26	B	河本 鉄士 TETSUSHI KAWAMOTO	30	愛知	ヤマハ TZ125		DL		
27	B	芦澤 寛繁 HIROSHIGE ASHIZAWA	21	奈良	ホンダ RS125R	WINGROAD&マスオ商事ノ	BS		
28	B	岡田 元裕 MOTOHIRO OKADA	25	三重	ヤマハ TZ125	レーシングチーム☆はやし	DL		
29	B	岡野 克司 KATSUJI OKANO	21	奈良	ホンダ RS125R	アルターナRなかの&ハマデン	DL		
30	B	西川 満 MITSURU NISHIKAWA	25	三重	ホンダ RS125R	FEEDレーシング	DL		
31	B	田畑 輝好 TERUYOSHI TABATA	24	三重	ホンダ RS125R		DL		
32	B	瀧元 洋行 HIROYUKI TAKIMOTO	27	静岡	ヤマハ TZ125	TeamちいたあSS美研堂ノ	DL		
33	B	昆澤 正史 TADASHI HIZAWA	29	愛知	ホンダ RS125R	チームKOHSAKA	DL		
34	B	中井 貴之 TAKASHI NAKAI	25	京都	ホンダ RS125R	毎日新聞山科北&山科カワサキ	DL		
35	B	島田 幸夫 YUKIO SHIMADA	21	三重	ホンダ RS125R	オート エース・レーシング	DL		
36	B	笹川 泰道 HIROMICHI SASAGAWA	24	大阪	ホンダ RS125R	Jレーシング&リトルウイング	DL		
37	B	鈴木 秀明 HIDEAKI SUZUKI	23	愛知	ヤマハ TZ125	モト・ミット&YSP岡崎中央	DL		
38	B	久保 和寛 KAZUHIRO KUBO	22	京都	ホンダ RS125R	リアライズレーシング	DL		
39	B	南 裕之 HIROYUKI MINAMI	28	大阪	ホンダ RS125R	Team KRS	BS		
40	B	蔵端 基久治 KIKUJI KURABATA	22	和歌山	ホンダ RS125R		DL		
41	B	木戸 則和 NORIKAZU KIDO	19	京都	ホンダ RS125R	モト・ピットRPT	DL		
42	B	上木 聡 SATOSHI UEKI	24	大阪	ヤマハ TZ125	ヨシイ レーシング	DL		
43	B	田中 淳次 JUNJI TANAKA	23	愛知	ホンダ RS125R	チーム・びんぼへず・三河	DL		
44	B	滝 かおる KAORU TAKI	35	愛知	ホンダ RS125R	ガレージニワ榎本様テクノギルド	DL		

●NB-GP125の見どころ▷39ページ

※タイヤメーカー名称略称/BS:ブリヂストン、DL:ダンロップ、YH:ヨコハマ

※ゼッケンは予選用です。決勝とは異なります。

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	C	稲葉 司 TSUKASA INABA	23	愛知	ヤマハ TZ125	TEAM-P. BOX	DL		
2	C	藤井 淳年 ATSUTOSHI FUJII	28	静岡	ホンダ RS125R	浜松チームタイタン	DL		
3	C	白橋 正樹 MASAKI SHIRAHASHI	20	三重	ホンダ RS125R	ITO&ラリーレーシングチーム	DL		
4	C	安部 剛実 TAKEMI ABE	20	三重	ホンダ RS125R	ITO&RALLY R. T	DL		
5	C	平嶋 浩一 KOUICHI HIRAJIMA	24	大阪	ホンダ RS125R	TOOBEE&ガレージニワ	DL		
6	C	片岡 祐一 YUUICHI KATAOKA	21	三重	ヤマハ TZ125	チーム モトスペース	DL		
7	C	高橋 秀明 HIDEAKI TAKAHASHI	27	静岡	ホンダ RS125R	SHOWA PISTONS	BS		
8	C	山本 公一 KOUICHI YAMAMOTO	22	京都	ホンダ RS125R	MY-RACING	DL		
9	C	山崎 裕司 YUUJI YAMAZAKI	27	愛知	ホンダ RS125R	クイックレーシング新栄舎	BS		
10	C	三好 克也 KATSUYA MIYOSHI	21	兵庫	ヤマハ TZ125	テクノギルドレーシングチーム	DL		
11	C	小川 祥司 SYOJI OGAWA	26	神奈川	ホンダ RS125R	RACING HORNET	YH		
12	C	辻 幸宏 YUKIHIRO TSUJI	22	三重	ホンダ RS125R		DL		
13	C	東田 良和 YOSHIKAZU HIGASHIDA	25	愛知	ヤマハ TZ125	Support Racing	DL		
14	C	藤田 健太郎 KENTARO FUJITA	21	三重	ホンダ RS125R		DL		
15	C	清水 由幸 YOSHIYUKI SHIMIZU	21	愛知	ホンダ RS125R		DL		
16	C	早川 浩一 KOUICHI HAYAKAWA	21	愛知	ホンダ RS125R	ガレージゲンジNAG92	DL		
17	C	服部 和明 KAZUAKI HATTORI	22	奈良	ホンダ RS125R	ちいむ♥みどころ&ウシロイ!!	DL		
18	C	今宮 貴文 TAKAFUMI IMAMIYA	26	三重	ホンダ RS125R	PHOENIX RACING	BS		
19	C	岡村 丞 SUSUMU OKAMURA	23	滋賀	ホンダ RS125R		DL		
20	C	小栗 一太 KAZUFUTO OGURI	23	静岡	ホンダ RS125R	カストロールオオシロ小栗鉄工	DL		
21	C	富田 信之 NOBUYUKI TOMITA	21	愛知	ヤマハ TZ125	R. WORKS	DL		
22	C	谷尾 篤彦 ATSUHIKO TANIO	20	大阪	ホンダ RS125R	POW&クワタレーシング大藪淀	DL		
23	C	川内 秀一 SYUICHI KAWAUCHI	25	京都	ホンダ RS125R	岩城RACINGやにこいず隊員	DL		
24	C	青山 憲二 KENJI AOYAMA	24	三重	ヤマハ TZ125	ウカワR&Mコメット	DL		
25	C	木下 康弘 YASUHIRO KINOSHITA	21	三重	ホンダ RS125R	柳河精機RACING TEAM	DL		
26	C	鈴木 貴之 TAKASHI SUZUKI	20	滋賀	ホンダ RS125R	TEAM ホットドック	DL		
27	C	村上 光男 MITSUO MURAKAMI	28	愛知	ホンダ RS125R	KOHSAKA	DL		
28	C	瀬川 耕司 KOUJI SEGAWA	22	兵庫	ホンダ RS125R	α・CMaシリウスレーシング	BS		
29	C	岩谷 一人 KAZUTO IWATANI	22	三重	ホンダ RS125R	アルターナレーシングASナカノ	DL		
30	C	近藤 高正 TAKAMASA KONDO	24	愛知	ホンダ RS125R	チーム カツラガワ	DL		
31	C	佐々木 利夫 TOSHIO SASAKI	26	三重	ホンダ RS125R		DL		
32	C	中村 大介 DAISUKE NAKAMURA	22	三重	ホンダ RS125R	テクノギルドRT&カルビ	DL		
33	C	徳田 敏行 TOSHIYUKI TOKUDA	28	京都	ホンダ RS125R	R. T ジーゼット&ウイリー	DL		
34	C	小林 功 ISAO KOBAYASHI	27	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ	BS		
35	C	大西 実 MINORU OHNISHI	21	大阪	ホンダ RS125R	TEAM ばわあくらふと	BS		
36	C	岡野 太郎 TARO OKANO	21	愛知	ホンダ RS125R		DL		
37	C	葵 鐘浩 KANEHIRO SAI	23	岐阜	ホンダ RS125R	T・ASB&仁川木工	DL		
38	C	廣田 明博 AKIHIRO HIROTA	29	東京	ホンダ RS125R	サポートプランニングTガンマ	DL		
39	C	埴山 誠二 SEIJI KAERIYAMA	23	静岡	ホンダ RS125R	浜松エスカルゴRT	DL		
40	C	榊原 秀樹 HIDEKI SAKAKIBARA	26	愛知	ホンダ RS125R	TEAM. P. BOX&サキ	BS		
41	C	橋本 晃 AKIRA HASHIMOTO	25	愛知	ヤマハ TZ125	トライポイント&BHオクムラ	DL		
42	C	新山 敦史 ATSUSHI NIYAMA	23	三重	ホンダ RS125R	Team BATTLE	DL		
43	C	浅岡 政司 MASASHI ASAOKA	23	愛知	ホンダ RS125R	Jレーシングチーム	DL		
44	C	川口 宏樹 HIROKI KAWAGUCHI	23	愛知	ヤマハ TZ125	RAYS豊橋	DL		

ENTRY LIST

NB-GP125

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	D	伊藤 久史 HISASHI ITOH	21	三重	ホンダ RS125R	ファニーハウス&(株)大安製作所	DL		
2	D	平良 広人 HIROTO TAIRA	25	三重	ホンダ RS125R	Team BATTLE	DL		
3	D	広瀬 賢一 KENICHI HIROSE	22	三重	ホンダ RS125R	46期 布施工 3M4 同窓会	DL		
4	D	川北 秀夫 HIDEO KAWAKITA	45	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ	BS		
5	D	南部 洋一 YUICHI NANBU	20	三重	ホンダ RS125R	FAST RACINGTEAM	DL		
6	D	古谷 崇 TAKASHI FURUTANI	22	三重	ホンダ RS125R	炬ばた焼いね千代田店&佐原住建	DL		
7	D	植田 延夫 NOBUO UEDA	26	愛知	ホンダ RS125R		DL		
8	D	岩村 龍司 RYUJI IWAMURA	17	京都	ホンダ RS125R	SRS・J	DL		
9	D	大山 真 MAKOTO OHYAMA	20	愛知	ヤマハ TZ125	MOTOMIT&YSP岡崎中央	DL		
10	D	田井 正仁 MASAHIRO TAI	21	大阪	ホンダ RS125R	BADBOY Racing	DL		
11	D	石橋 伸介 NOBUYUKI ISHIBASHI	23	大阪	ホンダ RS125R	POWER・R・P-Tコバヤシ	DL		
12	D	島岡 彦都 HIROFUMI SHIMAOKA	26	大阪	ホンダ RS125R	テラガワ&ヨシイ Rと馳走亭車場	DL		
13	D	倉本 英知 HIDEKAZU KURAMOTO	24	奈良	ホンダ RS125R		DL		
14	D	本間 ごう GOU HONMA	22	三重	ヤマハ TZ125	TEAM BATTLE	DL		
15	D	塚本 薫 KAORU TSUKAMOTO	23	三重	ホンダ RS125R	レーシングチーム トクノ	DL		
16	D	荒川 智樹 TOMOKI ARAKAWA	21	三重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム	DL		
17	D	山本 章弘 AKIHIRO YAMAMOTO	26	愛知	ホンダ RS125R	TEAM P. BOX	BS		
18	D	高橋 武 TAKESHI TAKAHASHI	20	京都	ホンダ RS125R	タケタケタケRT	DL		
19	D	北島 航 WATARU KITAJIMA	23	静岡	ヤマハ TZ125	☆ブラックバンサーRT	BS		
20	D	尾崎 政博 MASAHIRO OZAKI	20	三重	ホンダ RS125R	BAGUSRACINGTEAM	DL		
21	D	山下 勝 MASARU YAMASHITA	27	三重	ホンダ RS125R	OXレーシング&ササキ商会	DL		
22	D	高橋 ナオキ NAOKI TAKAHASHI	26	三重	ホンダ RS125R		DL		
23	D	田中 惇 SHINOBU TANAKA	21	兵庫	ホンダ RS125R	フジワラクラブ&From1'S	BS		
24	D	岡田 純一 JYUNICHI OKADA	19	三重	ホンダ RS125R	BAGUSレーシングチーム	DL		
25	D	城之内 信吾 SHINGO JONOUCI	23	愛知	ホンダ RS125R	スパイラルレーシング	DL		
26	D	隈元 正和 MASAKAZU KUMAMOTO	21	大阪	ホンダ RS125R	C. B. SAKURANBO	BS		
27	D	秋田 浩司 KOUJI AKITA	21	愛知	ヤマハ TZ125	ウカワR&Mコメット	DL		
28	D	工藤 志雄 TADAO KUDOH	20	三重	ホンダ RS125R	チームヨシハル	DL		
29	D	藤谷 昌道 MASAMICHI FUJITANI	25	愛知	ホンダ RS125R	TEAM アトランタ	BS		
30	D	中嶋 貞一 TEIICHI NAKAJIMA	27	大阪	ホンダ RS125R	モト苦楽部	BS		
31	D	西川 勇一 YUICHI NISHIKAWA	22	滋賀	ホンダ RS125R	チャリオッツ&エコークラブ!!			
32	D	中平 博康 HIROYASU NAKAHIRA	21	愛知	ホンダ RS125R	成田電気工事&SSトリイオート	DL		
33	D	小野 勉 TSUTOMU ONO	26	愛知	ホンダ RS125R	ウカワR&Mコメット	DL		
34	D	阿部 和明 KAZUAKI ABE	24	愛媛	ヤマハ TZ125	伯方島レーシング&コスモスRT	DL		
35	D	木下 富夫 TOMIO KINOSHITA	26	大阪	ホンダ RS125R	VEGA.S&メガネの木下	DL		
36	D	森 真 MAKOTO MORI	22	三重	ホンダ RS125R	FEEDレーシング	DL		
37	D	井上 貴孔 TAKAYOSHI INOUE	22	愛知	ヤマハ TZ125	TEAM はぎの	DL		
38	D	伊藤 康彦 YASUHIKO ITO	27	愛知	ホンダ RS125R	クイックレーシング新栄舎	BS		
39	D	小崎 幹彦 MIKIHICO KOZAKI	23	京都	ヤマハ TZ125	チームウイリー	DL		
40	D	松木 克典 KATSUNORI MATSUKI	22	大阪	ホンダ RS125R	アゲインレーシングクラブ	DL		
41	D	新木 聡 SATORU SHINKI	23	大阪	ヤマハ TZ125	TECHNO GUILD./			
42	D	木山 昭治 SYOUJI KIYAMA	25	岡山	ホンダ RS125R	フジワラクラブ	BS		
43	D	大石 吉孝 YOSHITAKA OHISHI	23	三重	ホンダ RS125R	RT. トクノ	DL		

●NB-GP125の見どころ▷39ページ

※タイヤメーカー名略称/BS:ブリヂストン、DL:ダンロップ、YH:ヨコハマ

※ゼッケンは予選用です。決勝とは異なります。

情報満載!!
ホット・バイクマガジン



楽しくなくちゃ、バイクじゃない! まるちバイクマガジン

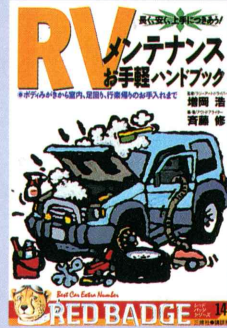
**モト
チャンピオン**

毎月6日発売
300円
(税込)

欲しいバイクが見つかるぞ! USEDバイク情報誌

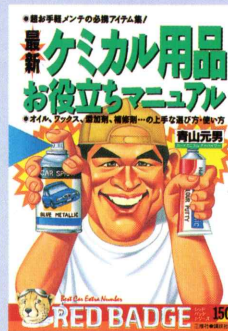
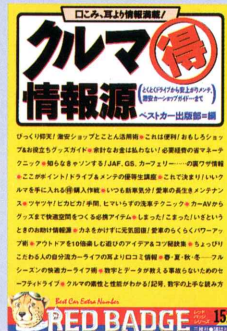
ちやんぷー
champ

毎月14日発売
280円
(税込)

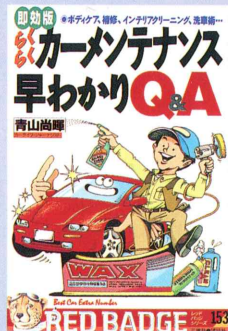


最新刊・好評発売中

- 158 改造車検をパスする本 広田民郎
- 159 オットマンのちよつとチューンテクニック 太田政幸



ポールポジション of Books.



●定価各1000円(税込)
※151号は1300円

ベストカー別冊 レッドバッジシリーズ

- 146 クルマの応急手当100 — 長嶋達人
- 147 RVメンテナンスお手軽ハンドブック — 増岡浩
- 148 間違いだらけのワンボックス&1.5ボックスカー選び — 西村光生
- 149 最速版 実戦!カートテクニック — 季好彦
- 150 最新ケミカル用品お役立ちマニュアル — 青山元男
- 151 クルマ情報源 — ベストカー出版部
- 152 Uカー見栄っぴり改造講座 — 国沢光宏
- 153 即効版 らくらくカーメンテナンス早わかりQ&A — 青山尚暉
- 154 '94間違いだらけの中古車選び — 松下宏
- 155 図解・めきめき運転がうまくなる本 — 津々見友彦
- 156 あつという間の3分間クルマ整備術 — 富田進一
- 157 クルマの長生き秘訣集 — 米田茂

絶賛発売中!



他誌を寄せつけない機動力

RIDING SPORT

RIDERS' SPIRIT FROM
MOTORCYCLE SCENES

SINCE 1982

速報! 全日本ロードレース選手権

3/13 鈴鹿サーキット

第1戦鈴鹿詳細レポート



GP開幕直前テスト情報
八代俊二の日本GP徹底予想
RSインタビュー/原田哲也
宗和孝宏のスーパーバイクへいらっしゃい
NK4鈴鹿第2戦、鈴鹿サンデーロードレース第2戦
レース費用捻出のためのケチケチ経済学実例集
連載好調 RS125R/MH80R/ミニバイク入門企画
(企画は一部変更になる場合があります)

二輪レース専門誌ライディングスポーツ

5月号は3月24日(木)発売です

毎月24日発売・定価580円(税込み) お求めは全国書店でどうぞ

NEWS PUBLISHING CO., INC.
株式会社 ニュース出版

新たなる 挑戦

世界GP仕様のNSRを手に入れ
V2に賭けるゼッケン①宇川
そこに真っ向からの戦いを挑む
スズキワークス・沼田
さらに、そこに絡むのは
NSR+匹田、アプリリア+宮崎
その誰もが、果敢に勝ちを狙ってくる

GP250

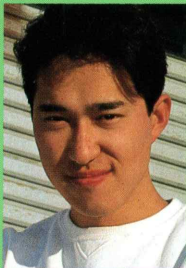
START 11:50 17LAPS

- レース進行スケジュール▷ 8ページ
- エントリーリスト▷ 24～25ページ

**GP250
東西ルーキー対決!
94年IA昇格
注目のライダー**

68 前田誠司

●1970年6月22日生まれ(23歳) ●大阪府出身



スーパーカップ・ウエスタンシリーズGP125で全8戦中5勝、うちポールtoウインが4回という、圧倒的な強さを見せた。今シーズンは昨年同様、RC甲子園からGP250にフル参戦する注目のライダーだ。

79 加藤大治郎

●1976年7月4日生まれ(17歳) ●埼玉県出身



今年の特別昇格組の中では一番の注目株である加藤大治郎。3つの地方選手権に出場し、19勝をマーク。九州選手権ではSP250、NB250、GP125の3クラスでチャンピオンを獲得するなど実力は折り紙つき。

原田哲也が93年の世界グランプリGP2クラスのチャンピオンを獲得。92年まで全日本を戦っていた原田のこのタイトル獲得劇は、それまでにも定評のあった全日本GP250クラスのレベルの高さを、再び明確な形で証明した。

さて、原田の後に続くライダーは誰だろう？ 最右翼は、今季ゼッケン①を手に入れた宇川 徹だ。昨年、宇川がライディングしたNSRは、グランプリ仕様よりも若干、重量面などでハンディを背負っていたが、今季は世界グランプリ仕様とほぼ同レベルのマシンが与えられることになった。



グランプリで圧倒的スピードを誇ったNSRを得、宇川がV2に向けてどのような走りを見せるか、非常に楽しみだ。

その宇川に待ったをかけるのは、昨シーズン、市販レーサーRSで1勝を挙げる活躍を見せ、今シーズンはサテライトチームながら、念願のNSR貸与を受ける匹田禎智だ。チャンピオンを狙える環境を手に入れた匹田が、宇川にとって脅威の存在となるのはまちがいないだろう。

さらに、ヤマハワークスとしてファクトリーチューンのTZを駆る難波恭司、芳賀健輔。また昨年同様、RGV-Γで戦うスズキワ

ークス沼田憲保らが表彰台の常連メンバーとなるだろう。

こうしたファクトリー勢の戦いに一矢報いる活躍が期待できるのは、宮崎 敦だ。アプリリアにスイッチして2年めの今季、タイヤメーカーの変更以外は、昨年と同じエンジン、車体を継続して使用する。昨シーズンの後半戦でポールポジションを獲得するほどの高い戦闘力を備えたアプリリア+宮崎。あとは、セッティングが決まり、常により100%に近い状態でレースに臨める状態を作ること。彼の活躍は、この点にかかっている。

SUNSTAR
SUNSTAR
SUPER BIKE SERIES

なお、青木拓磨、生見友希雄は今季、スーパーバイククラスにスイッチしている。

世界にも十分に通用するほどの、高レベルな戦いが繰り広げられる全日本GP250クラス。今年も優勝の2文字と、その向こうに見える世界へ向けて、各ライダーとも新たな挑戦を開始する。さて今シーズン、チャンピオン宇川がV2を果たすのか、それとも？ シーズンの今後を占う意味でも、今大会は見逃せない1戦となりそうだ。



激突! RS vs TZ

昨シーズンデビューを飾ったTZは今年20台を越すエントリーを数え、一大勢力となったさて、宮坂を筆頭とするRS勢の巻き返しはいかに？ここ鈴鹿でシーズンに幸先の良いスタートを切るのは…？

GP125

START 10:30 15LAPS

●レース進行スケジュール▷ 8 ページ ●エントリーリスト▷ 26~28 ページ

長年、RSのワンメイク状態で争われていたGP125クラス。しかし昨シーズン、その流れに大きな変化が生まれた。開幕戦鈴鹿でTZ125が華麗なデビューを飾り、参戦1年めにして見事チャンピオンを獲得したのだ。ライダーは加藤義昌。RSライダー勢を尻目に、出場10戦中6勝を挙げるといふ強さを見せたのだった。

そして今シーズン、その加藤は世界グランプリへ活躍の場を移し、さらにゼッケン②仲城英幸、ゼッケン③徳留真紀、ゼッケン⑩井形とも子も、グランプリへ参戦を開始する。ゼッケン1、2、3不在の中、今シーズンのGP125クラスは開幕を迎えた。

94年のチャンピオン最有力候補として、まず挙げられるのは宮坂 賢だ。昨シーズンの、第11戦と最終戦の2戦では、このクラスでは珍しい、独走優勝を果たした。マシンも順調に仕上がりに、今シーズンは昨年以上の速さが期待できる。

そして気になるTZ勢だが、今季、加藤の跡を継ぎ開発を担当するのは、茨木 繁だ。





主な参戦目的が95年型TZの先行開発のため、スポット参戦となる模様だが(今大会は欠場)、加藤同様の活躍は十分期待できる。そして、茨木のチームメイトは原田哲也の実弟である原田伸也。シーズン序盤はノーマルに近いTZを駆ることになるようだが、成績しだいかなりポテンシャルアップしたTZが与えられる可能性もある。

さらに、この第1戦に限って、ビッグな話題が飛び込んできた。世界グランプリを戦う上田 昇と辻村 猛が、GP開幕直前

の今大会にスポット参戦するのだ。このふたりのGPライダーに、全日本勢がどう挑むか、また、ふたりのGPライダーの切れのある走りも見ものだ。

さて、いよいよ激化するRS対TZの戦い。そして、GP帰り、GP現役、GP予備軍ライダーの競演。優勝の可能性を秘めるライダーがひしめきあい、昇格組がいきなり大活躍を演じることが少しもめずらしくないGP125クラスだけに、見どころは思わぬところに隠れているのだ。

GP125 東西ルーキー対決! 94年IA昇格 注目のライダー

67 眞子智実

●1972年9月16日生まれ(21歳) ●佐賀県出身

昨年の鈴鹿4時間耐久レースのポールシッター、眞子智実。テクニカルスポーツから、Aキット付きRS125で全日本にフル参戦。同じチーム出身の辻村、徳留らに続く、GPライダー予備軍のひとりだ。



56 宇井陽一

●1972年11月27日生まれ(21歳) ●千葉県出身

関東選手権NB125では146ポイント、2位に90ポイントもの差をつけてチャンピオンを獲得した宇井陽一。東日本の5レースでコースレコード、出場16戦中13勝を誇る。チームタイラからGP125に参戦。



実力勝負を制し、未来へステップを踏み出せ NB-GP125

START 15:50 10LAPS

- レース進行スケジュール▶ 8 ページ
- エントリーリスト▶ 29~32 ページ

国内B級ライダーによって争われるこのレース。使用されるマシンは、排気量125ccの市販ロードレーサー。昨シーズンまでは、ホンダRS125Rのワンメイク状態だったが、昨年、ヤマハTZ125が国際A級クラスにデビューし、いきなりチャンピオンを獲得。そのチャンピオンマシンが、94年モデルTZ125として発売され、このNBライダーも手に入れることができるようになった。そして、NBライダーによるRS対TZの戦いが開始されることになった。さて、軍配はどちらに上がるのか、実に興味深いところだ。

今シーズン、鈴鹿サーキットのフルコースで行われるNB-GP125クラスのレースは今回が緒戦となる。限られた時間内でいかにコースを攻略し、マシンをセットアップしてくるか、このあたりが勝負を決める重要なポイントとなるだろう。



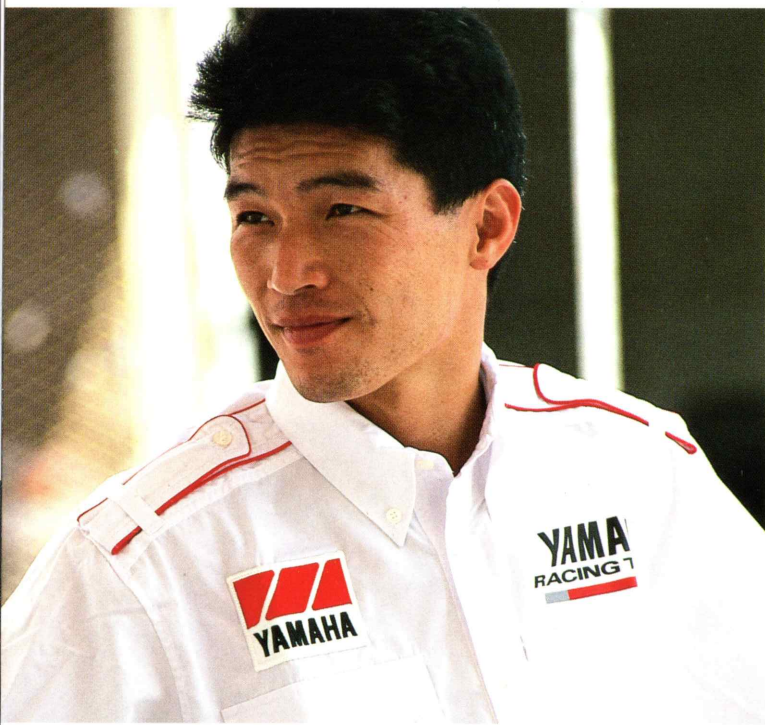
また、これまでも上田 昇、辻村 猛など、世界に通じるトップライダーを育ててきた、この鈴鹿選手権NB-GP125クラス。マシン、ライダーの実力とも非常に拮抗しているため、全く無名のライダーがいきなり表彰台の中央に立つこともめずらしいことではない。また、この第1戦で活躍し、

次のレースからは有力チームで走り、頭角を現してくるのもよくあるケースだ。

さて、フルコース、全日本併催という大舞台での激戦を制し、94年スーパールーキーとしてその名を轟かせるのは? そしていつか上田や辻村に続くのは誰か? 楽しみな1戦になりそうだ。

GP250 RIDERS

開幕を勝利で飾るのは? GP250ライダー & マシン紹介



8 宮崎 敦 OSAMU MIYAZAKI

APRILIA RSV250R

- 1966年1月23日生まれ(28歳)
- 山口県出身
- 89年国際A級昇格
- 89年全日本IA-250クラス・ランキング20位
- 90年全日本IA-250クラス・ランキング10位
- 91年全日本IA-250クラス・ランキング7位
- 92年全日本GP250クラス・ランキング5位
- 93年全日本GP250クラス・ランキング8位

「車体もエンジンも昨年と同じものを継続して使います。94年モデルって、93年モデルとそれほど変わらないんですよ。今年はず、1勝を挙げたいですね。そして、念願のチャンピオンを獲りたいですね。頑張ります!」

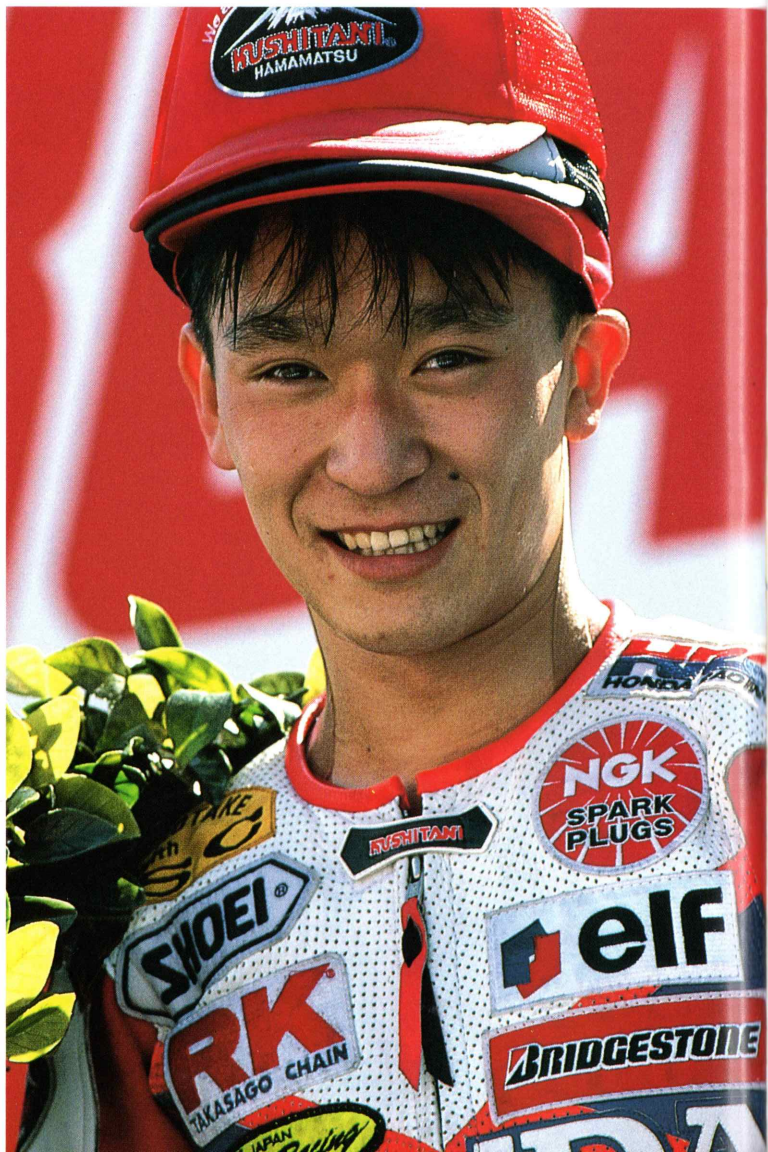


1 宇川 徹 TOHRU UKAWA

HONDA NSR250

- 1973年5月18日生まれ(20歳)
- 千葉県出身
- 92年国際A級昇格
- 92年全日本GP250クラス・ランキング13位
- 93年全日本GP250クラス・チャンピオン

「開幕戦は、もちろん優勝といきたいです。ポールトゥウィンでコース記録のおまけつきだったら最高! マシンは2月の中旬に初走行を済ませ、仕上がりは上々です。後は、自分のコンディションをいい方向に持っていただけですね」

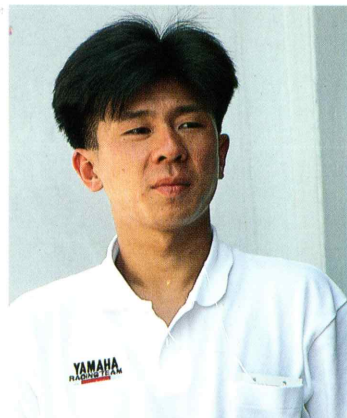


3 難波恭司 KYOHJI NANBA

YAMAHA TZ250

- 1963年3月8日生まれ(31歳)
- 広島県出身
- 86年国際A級昇格
- 89年全日本IA-250クラス・ランキング5位
- 90年全日本IA-250クラス・ランキング10位
- 91年全日本IA-250クラス・ランキング6位
- 92年全日本GP250クラス・ランキング7位
- 93年全日本GP250クラス・ランキング3位

「マシン、ライダーともに順調に仕上がっています。目標はもちろん、チャンピオン。だから開幕戦から、シリーズのことを考えて、勝ちを狙っていきたいですね。お客さんに喜んでもらえるようなレースをしたいですね」



23 芳賀健輔 KENSUKE HAGA

YAMAHA TZ250

- 1973年6月1日生まれ(20歳)
- 愛知県出身
- 92年国際A級昇格
- 92年全日本GP250クラス・ランキング14位
- 93年全日本GP250クラス・ランキング23位

「今年、タイヤが変わるんですよ。マシンも仕様変更になったし、慣れないといけないことがすごく多いんですよ。でも、すぐにチームに溶け込むこともできたし、いい環境でレースができるので頑張りますよ。目標はランキング6位以内ですね」



4 匹田 禎智

SADANORI HIKITA

HONDA NSR250

●1962年11月25日生まれ(31歳)

●長野県出身

90年国際A級昇格

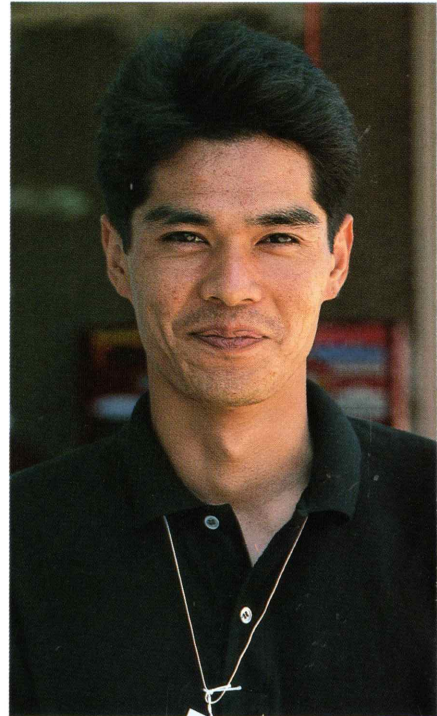
90年全日本IA-250クラス・ランキング16位

91年全日本IA-250クラス・ランキング10位

92年全日本IA-250クラス・ランキング6位

93年全日本GP250クラス・ランキング4位

「今年はワークスマシンNSRという、結果に言い訳のできないマシンを得たので、表彰台に上がるのはあたりまえ、もちろん優勝をめざして頑張ります。目標は何勝できるか! 気負いはありませんが、はっきりと勝ちを狙っています」



5 沼田 憲保

NORIYASU NUMATA

SUZUKI RGV-Γ250

●1966年4月26日生まれ(27歳)

●茨城県出身

91年国際A級昇格

91年全日本IA-250クラス・ランキング14位

92年全日本GP250クラス・ランキング9位

93年全日本GP250クラス・ランキング5位

「シーズンオフには、オーストラリアのイースタンクリークで走り込んできました。内容も充実していて、たいへん満足しています。去年の開幕戦は、ボールを取りながら決勝では転倒してしまったので、今年は確実に勝利をモノにできるよう頑張ります。応援、よろしくお願いします」



MACHINES

94シーズンの流れは
どのマシンによって
作られるか?
いよいよ戦闘開始だ



HONDA NSR250

92年にデビューしたニュー-NSR250は、シリンダーの狭み角を75度にし、チェーンラインを右側に移した新設計のエンジンと、プロアームと呼ばれる片持ちスイングアームが特徴のホンダのワークスマシンだ。このマシンに乗ったルカ・カダローラが92世界GPタイトルを獲得し、93年にはコンストラクターズタイトルを獲得するなど、最強の250ccGPマシンである。モデルチェンジから3シーズンめを迎える94モデルは、93モデルの基本構成を受け継ぎ、エンジン性能の向上と操縦性の改良を施したもので、高出力と実戦での扱いやすさを両立させている。市販RS250Rにキットパーツを装着したセミワークスマシンも存在する。



HONDA RS250

92年にワークスマシンがモデルチェンジしたのを機会に、それまで一般市販車・NSR250RをベースにしていたRS250Rは、93モデルになって完全なワークスレプリカマシンに変身した。その構成は、75度V型エンジンのクランクケースやシリンダー、片持ちタイプのスイングアームなどの鑄造にワークスマシンと同一の鑄造の型を用いているため、ほとんどのパーツに互換性があるという徹底ぶりだ。このため、キットパーツ装着車は、フレーム以外ほとんどワークスNSRと変わらないマシンとなる。このマシンのチューニングの目標は、どこまでNSRに迫る性能を発揮させることができるかだろう。



YAMAHA TZ250

昨年のGP 2クラスで世界GPタイトルを獲得した原田の乗る先行開発車・TZ250Mで得たノウハウを盛り込み、一段と完成度を高めた市販レーサーがTZ250の94モデルだ。1軸クランクシャフト・90度Vツインエンジンの基本は、コシンスキーがチャンピオンを獲得した90YZR250の流れをくむもので、フレーム各部の寸法、剛性バランス等はTZ-Mと同一である。原田の走りに見られたように、コーナーでの高い旋回能力とコントロール可能な出力特性を持ったマシンだ。今年、難波は市販TZをベースにワークスチューンを施した、よりユーザーに近い状態のマシンで実戦テストを兼ね参戦する。



SUZUKI RGV-Γ250

デビュー以来4シーズンめを迎えたRGV-Γ250は、1軸クランクシャフト・80度V型のエンジンを、500ccのRGV-Γゆずりのフレームに搭載したスズキのワークスマシンである。登場以来、フレーム各部の寸法や剛性バランスの見直し、吸排気系を中心とした改良が続けられ、93年には全日本で優勝、世界GPでも2位に入賞するところまで性能を高めた。94モデルは93モデルの改良型で、エンジンの出力向上と特性の改良などによってさらに戦闘力を高めている。新しいラッキーストライクカラーに塗られたマシンは、このマシンの開発をしながら参戦を続けてきた沼田のライディングとともに、今シーズンの注目株だ。



APRILIA RSV250R

世界GPでは日本製ワークスマシンと対等に渡り合い、いくつかのレースで優勝しているアプリリアは、ワークスマシンとほとんど共通の市販レーサー・RSV250Rを販売している。2軸クランクシャフト・ロータリーディスクバルブという日本車にはないレイアウトのエンジンは、セッティングが決まれば日本製ワークスマシンを圧倒するパワーを発揮。その反面、メンテナンスに日本製のマシンでは考えられないような時間と経験が必要とし、全日本を走る宮崎のマシンは、チームデイトナで慎重に組み上げられ、セッティングされたものだ。独特のチューニングやライディングのテクニックを身につけた今年は、世界GPなみの活躍が期待される。

GP125 RIDERS

ホイールtoホイールの激闘! GP125ライダー&マシン紹介



4 菊池寛幸

HIROYUKI KIKUCHI

HONDA RS125R

- 1965年8月3日生まれ(28歳)
- 京都府出身
- 93年国際A級昇格
- 93年全日本GP250クラス・ランキング4位

「開幕戦ですから何としても勝ちたいですね。でもマシンが仕上がりに2月いっぱいまでかかる予定なんです。だから開幕戦は、ほとんどぶっつけ本番に近い状態になるでしょうね。とにかくやれるだけやりますよ! 応援よろしく」



11 上田昇

NOBORU UEDA

HONDA RS125R

- 1967年7月28日生まれ(27歳)
- 愛知県出身
- 90年国際A級昇格
- 92年世界GP、GP3クラス・ランキング7位
- 93年世界GP、GP3クラス・ランキング5位

91年の世界GP、開幕戦鈴鹿のデビューウインから早3年。日本人のGPライダーの中では、すでにベテランの域に入る上田昇。今年は、チームを移籍し心機一転。初タイトル獲得に向けて新しいスタートを切った。シーズンインを直前に控え、調整のため今大会にスポット参戦する。



9 宮坂賢

KEN MIYASAKA

HONDA RS125R

- 1970年9月20日生まれ(23歳)
- 東京都出身
- 92年国際A級昇格
- 92年全日本GP125クラス・ランキング2位
- 93年全日本GP125クラス・ランキング9位

「来年は、何としても世界グランプリへ行きたいんです。今年は、その準備のための1年にしたいと考えています。常に自分の前に、理想とする走りのイメージを置き、それを追い越せるような走りができるよう努力します。みなさん、応援よろしくお願いします」



5 天野邦博

KUNIHICO AMANO

HONDA RS125R

- 1970年2月15日生まれ(24歳)
- 東京都出身
- 93年国際A級昇格
- 93年全日本GP125クラス・ランキング5位

「とにかくベストを尽くしたいですね、初心を忘れずに。早いうちに世界へ行きたいので、それに相応しいスピードを身につけることが今シーズンの目標です。まず1勝、そしてコースレコードをマークしたいですね」





91 原田伸也

SHINYA HARADA

YAMAHA TZ125

- 1972年2月26日生まれ(22歳)
- 千葉県出身
- 93年スーパーカップ・イースタンシリーズ GP125クラス・ランキング2位
- 94年国際A級昇格

「A級一年めなので、まず開幕戦は様子を見るレースになると思います。マシンは順調に仕上がっていますが、僕自身が鈴鹿を走るのが92年の4耐以来なんです。目標はヒトケタの順位でチェッカーを受けることです」



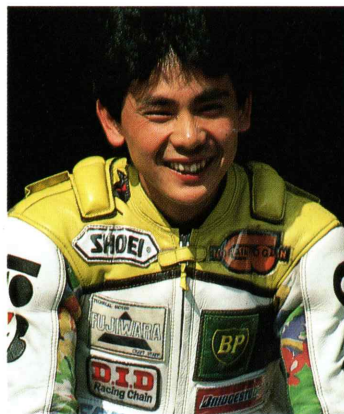
6 浅見昌行

MASAYUKI AZAMI

HONDA RS125R

- 1964年12月10日生まれ(29歳)
- 群馬県出身
- 91年国際A級昇格
- 91年全日本IA-125クラス・ランキング15位
- 92年全日本GP125クラス・ランキング13位
- 93年全日本GP125クラス・ランキング6位

「鈴鹿は昨年、雨のレースで表彰台に立つことができましたが、今年はドライのレースでも表彰台に上がれるように頑張ります。今年はコンスタントに入賞することと、1勝を挙げるのが目標ですね。応援してください」



7 高尾和弘

KAZUHIRO TAKAO

HONDA RS125R

- 1968年5月19日生まれ(25歳)
- 愛知県出身
- 93年国際A級昇格
- 93年全日本GP125クラス・ランキング7位

「今シーズンは、一戦一戦思い切った走りをしたいですね。体調もベストなので、開幕戦から表彰台目指して頑張ります。お客さんが感動できるような走りをしたいと思いますので、見ててください！」



88 辻村 猛

TAKESHI TSUJIMURA

HONDA RS125R

- 1974年7月4日生まれ(19歳)
- 大阪府出身
- 92年国際A級昇格
- 92年全日本GP125クラス・ランキング9位
- 93年世界GP、GP3クラス・ランキング3位

「今回の出場は、94仕様のマシンのテストのためです。今年は何としても世界GP第3戦の鈴鹿で勝ちたいんです。だから鈴鹿でのテストがものすごく重要なんです。みなさん、世界GPでゼッケン3をつける僕の走り、しっかり見てください！」



8 藤崎直之

NAOYUKI FUJISAKI

HONDA RS125R

- 1969年3月27日生まれ(24歳)
- 神奈川県出身
- 92年国際A級昇格
- 92年全日本GP125クラス・ランキング39位
- 93年全日本GP125クラス・ランキング8位

「今年はシーズンオフのテストの回数が少なく、94仕様のエンジンが思ったように仕上がってないんですよ。ですから、車体のセットアップも選んでいます。自分自身のコンディションはトレーニングのおかげでベストな状態です。とにかく、当たって砕けろですよ」

MACHINES

GP125クラスを戦う
市販ロードレーサー
ホンダRS、ヤマハTZ
今季猛威をふるうのは？



HONDA RS125R

GP125クラスで絶対的な勢力を誇るホンダの市販レーサーがRS125Rで、92年まで約10年間、全日本はRS125Rのワンメイク状態が続いた。エンジンの基本は市販モトクロスサー-CR125と共通だが、クランクケース以外のパーツはロードレーサー専用のもの。これによってリーズナブルな価格のマシン供給が可能であった。市販レーサーでありながら、チューニングを施したマシンの戦闘力は高く、キットパーツ装着車に乗るダーク・ラウディスが93年世界GPタイトルを獲得している。昨年から全日本にもキットパーツが供給されるようになり、このマシンとともに技術を蓄積してきたコンストラクターのチューニング競争も見逃せない。



YAMAHA TZ125

93シーズンの全日本に加藤義昌のライディングで突然姿を現わし、開幕戦での優勝を皮切りに破竹の勢いで連勝し、初年度にしてタイトルを獲得したTZ125は、昨年の秋に早くも市販化にこぎつけた。カセット式のミッションや倒立フォークを装備するマシン造りにはTZ250との共通点が多く、ピークパワーよりも扱いやすさを重視した性格もTZ250ゆずりだ。シーズンオフには何人かの有力ライダーの手に渡り、コンストラクターによるチューニング競争も始まった。市販が開始されて初めてのシーズンだけに、どこがチューニングした、誰のマシンが速いのか、そして、実績あるRS125Rの牙城にどこまで迫ることができるかが見どころだ。

SUZUKA CIRCUIT

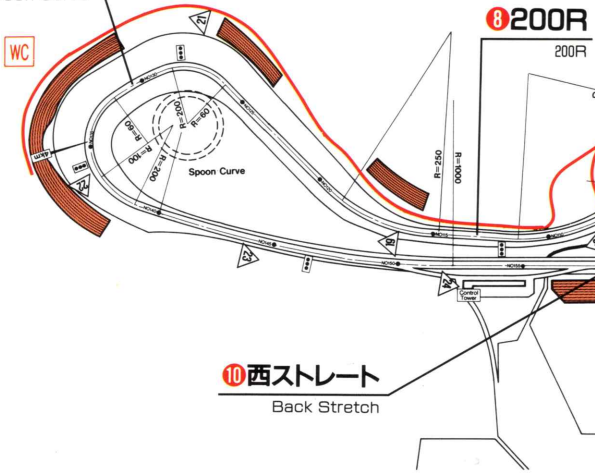
INTERNATIONAL RACING COURSE

COURSE GUIDE

鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/データ
 完成 : 1962年 9月
 コース長 : 5.86403km
 コース幅 : 9m~12m
 コーナー数 : 17
 メインストレート : 800m
 バックストレッチ : 1200m

-  入口 Gate
-  歩道 Passage
-  記念品コーナー Souvenir Corner
-  救護所 Emergency Medical Center
-  サーキットビジョン Circuit Vision
-  軽食 Snack
-  売店 Store
-  案内所 Information Center
-  トイレ Toilet
-  観客席 General Admission Area

9 スプーンカーブ
Spoon Curve



12 カシオトライアングル(シケイン)
CASIO Triangle

7 ヘアピンカーブ
Hairpin Curve

13 最終コーナー
Last Corner

11 130R
130R

5 ダンロップコーナー
Dunlop Curve

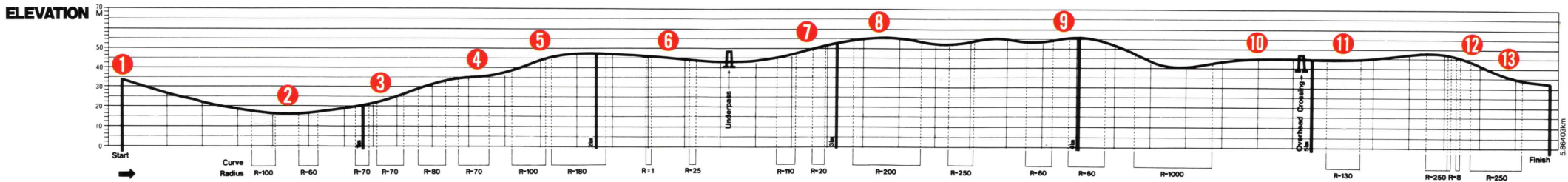
4 逆バンク
Anti-Banked Curve

6 デグナーカーブ
Degner Curve

3 S字コーナー
S-Curve

1 グランドスタンド
Grandstand

2 1~2コーナー
1st & 2nd Corner



観戦ポイント

番号はコース図と高低差を表すエレベーションに記してある観戦ポイントの説明です。

<p>1 グランドスタンド レースの流れが一番分かりやすいのがグランドスタンド。スタートやゴールはもちろん、大型のカラーモニター、サーキットビジョンや順位を表示するリーダーボードがあり、レースの展開が分かりやすい。目の前で行われるピット作業の他、スタートでの抜きあいも楽しめる。</p>	<p>2 1～2 コーナー 第1コーナーは鈴鹿サーキット一番の追い抜きポイント。下りのストレートから、スリッパストリームを使って第1コーナーへの飛び込みで追い越していく。そのギリギリまで遅らせるブレーキング競争が勝負のポイントになる。また、スタート直後のトップ争いは大迫力だ。</p>	<p>3 S字コーナー その名の通りS字の形をしたコーナー。左、右と連続するテクニカルなコーナーのため、リズムミカルのマシンが楽しめる。ここをうまく走れるかどうかタイムに大きく影響するため、ライダーのテクニックとマシンのセッティングを見るにはもってこいの場所。</p>	<p>4 逆バンク サーキットのコーナーには、普通すり鉢状のカントと呼ばれる傾斜がついている。だが、ここはその傾斜がほとんどついていないため、ライダーからは逆に傾斜しているように見えるのでこの名がある。ライダーにとってはシビアなコーナリングが要求されるコーナーだ。</p>	<p>5 ダンロップコーナー コースの中で最も上り勾配のきつい地点。その上高速コーナーのため、ライダー、マシンともにハードなコーナリングが要求される。マシンが小刻みにドリフトする様子が見えるかもしれない。マシンが駆け上っていく様子は迫力がある。区間タイムを計ってみるのも一興。</p>	<p>6 デグナーカーブ 64年、旧コース時代のこのコーナーでE.デグナーというGPライダーが転倒したことからこの名がついた。現在はふたつのコーナーを直線でつないだもの。加速してきたマシンが減速し、S字と同じようにうまくリズムミカルにクリアできるかがポイントとなる。</p>
<p>7 ヘアピンカーブ 形がヘアピンに似ていることからこう呼ばれる。デグナーカーブを抜け、加速したマシンが一気に減速するタイトなコーナー。車速がかなり落ちるので、コーナーの入口から出口まで、マシンの挙動をじっくり楽しめる。ライディングフォームの違いを観察するのもいい。</p>	<p>8 200R ヘアピンを抜けたマシンが徐々に加速していきながらハイスピードコーナー。もちろんライダーはアクセル全開だ。ヘアピンで1速に落ちたマシンが次のスプーンカーブに向けてシフトアップしていく様子がよく分かる。ここでのアクセルのかけ方でライダーの調子がわかるともいわれている。</p>	<p>9 スプーンカーブ 名前の由来はやはりその形状がスプーンに似ているところから。ここも大きく分けてふたつのコーナーからなるテクニカルなコーナー。ひとつ目はかなり高いスピードで進入するが、ふたつ目は車速が落ちる。ここを速く脱出することが次のバックストレッチでの伸びにつながる。</p>	<p>10 西ストレート バックストレッチと呼ばれる西ストレートは鈴鹿サーキットの中で最もスピードの速い地点。グランドスタンド前のメインストレートと並んでマシンのパワー差やスリッパストリームを使った攻防が見られる。次の130Rをめぐる好位置争いなどなかなかホット。</p>	<p>11 130R 最高速の出る西ストレートからわずかに減速して飛び込む、ライダーにとっても、見る側にとっても迫力十分の高速コーナー。予選でも決勝でも勝負をかけた時のライダーの迫力が伝わってくる。また130R手前がマシンの追い越しポイントにもなっている。</p>	<p>12 カシオトライアングル いわゆるシケインと呼ばれているのがここ。130Rからは下りのラインとなる。高速コーナー130Rを抜けた後のブレーキングひとつ。右、左、右とマシンを切り返すライダーの姿がバッチリ見える。撮影にもおすすめのポイント。</p>
					<p>13 最終コーナー 下りの長いコーナーで、ストレートや第1コーナーでの追い越しのために重要なポイント。ここでの立ち上がりがよくないとメインストレートでの加速に影響し、ひいてはラップタイムにも大きく影響してくる。クラス別に加速性能の差を比べてみるのも面白い。</p>

コースレコード

CLASS	TIME(km/h)	RIDER	MACHINE	DATE	RACE
GP1(GP500)	2'09"239(163.345)	ケビン・シュワツ	スズキ RGV-Γ	93. 4.17	マールボロ日本グランプリロードレース
GP2(GP250)	2'11"089(161.040)	原田 哲也	ヤマハ TZ250M	93. 4.17	マールボロ日本グランプリロードレース
TT F1	2'11"856(160.103)	塚本 昭一	カワサキ ZX-R7	92. 9.12	サンスターカップ インターナショナル鈴鹿ロードレース
GP3(GP125)	2'19"919(150.877)	加藤 義昌	ヤマハ TZ125	93. 6.12	サンスターカップ インターナショナル鈴鹿200kmロードレース
NB-GP125	2'24"479(146.115)	眞子 智実	ホンダ RS125R	93.12. 5	鈴鹿サンデーチャンピオンロードレース

94年鈴鹿サーキットは、コースレコード・ラッシュだ!

鈴鹿サーキット国際レーシングコースは、94年全周に渡る路面の改修工事を実施した。これにより、2月20日に開催されたフレッシュマントロフィーレースでは、西コースのレコードをなんと最高約2秒(RSクラス)短縮した。このように各カテゴリーとも、かなりのタイムアップが予想され、94年の鈴鹿は激しいコースレコード更新合戦となりそうだ。さて、今回のレースではどれ程のタイムが叩き出されるか? また誰が新しいレコードホルダーとなるのか、要注目だ。

鈴鹿サーキット ラップタイム&平均速度

Time	Speed(km/h)	コース距離×3600 ラップタイム(秒) = 平均時速									
1分30秒	234.561	1' 40".....211.105	1' 50".....191.913	2' 00".....175.920	2' 10".....162.988	2' 20".....150.789	2' 30".....140.736	2' 40".....131.940	2' 50".....124.179	3' 00".....117.541	3' 10".....111.268
1' 31"	231.983	1' 41".....209.014	1' 51".....190.184	2' 01".....174.467	2' 11".....161.148	2' 21".....149.719	2' 31".....139.804	2' 41".....131.121	2' 51".....123.453	3' 01".....116.141	3' 11".....109.846
1' 32"	229.462	1' 42".....206.965	1' 52".....188.486	2' 02".....173.036	2' 12".....159.928	2' 22".....148.665	2' 32".....138.884	2' 42".....130.311	2' 52".....122.735	3' 02".....115.467	3' 12".....108.910
1' 33"	226.994	1' 43".....204.956	1' 53".....186.818	2' 03".....171.630	2' 13".....158.725	2' 23".....147.625	2' 33".....137.977	2' 43".....129.512	2' 53".....121.266	3' 03".....114.009	3' 13".....107.402
1' 34"	224.579	1' 44".....202.985	1' 54".....185.179	2' 04".....170.246	2' 14".....157.541	2' 24".....146.600	2' 34".....137.081	2' 44".....128.722	2' 54".....120.324	3' 04".....112.617	3' 14".....105.895
1' 35"	222.215	1' 45".....201.052	1' 55".....183.569	2' 05".....168.884	2' 15".....156.374	2' 25".....145.589	2' 35".....136.196	2' 45".....127.942	2' 55".....119.631	3' 05".....110.488	3' 15".....103.588
1' 36"	219.901	1' 46".....199.155	1' 56".....181.987	2' 06".....167.543	2' 16".....155.224	2' 26".....144.592	2' 36".....135.323	2' 46".....127.171	2' 56".....118.946	3' 06".....111.268	3' 16".....104.141
1' 37"	217.634	1' 47".....197.294	1' 57".....180.431	2' 07".....166.224	2' 17".....154.091	2' 27".....143.608	2' 37".....134.461	2' 47".....126.410	2' 57".....118.268	3' 07".....110.009	3' 17".....102.402
1' 38"	215.541	1' 48".....195.467	1' 58".....178.902	2' 08".....164.925	2' 18".....152.974	2' 28".....142.638	2' 38".....133.610	2' 48".....125.657	2' 58".....117.598	3' 08".....108.846	3' 18".....101.266
1' 39"	213.237	1' 49".....193.674	1' 59".....177.399	2' 09".....163.647	2' 19".....151.874	2' 29".....141.681	2' 39".....132.774	2' 49".....124.914	2' 59".....116.541	3' 09".....107.141	3' 19".....100.009



開幕戦を制したのは、ホンダCB400SFを駆った、テクニカルスポーツの小西良輝。

NK4

'94鈴鹿NK4シリーズ

パドックにだって入場OK
ネイキッドのレースが熱い!

アップハンドルでエンジンむき出しのネイキッドバイク。ローソンやスパンサーなど多くの有名ライダーが本格的なレース活動を始めたのも、このアップハンドルのバ

イクでだった。そんな懐かしくて、どこか新鮮なネイキッドバイクが、今、大きな注目を集めている。

今年スタートした新カテゴリー「鈴鹿NK4シリーズ」は、誰でも気軽に参加し、楽しめるレースを目指した鈴鹿独自のカテゴリーで、レギュレーションも他にない、とてもユニークなものになっている。

出場できるマシンは、4ストローク400ccのネイキッドバイクがベース。改造範囲は、エンジンはほとんどノーマルのままだが、マフラーやサスペンション、キャブレターは自由に変更できる。

ただし、決勝で6位までに入った場合、希望者がいれば上限120万円で必ずそのマシンを売り渡さなければいけない、というのが鈴鹿NK4の一番ユニークなレギュレーションだ。どんなにコストのかかったマシンでも、必ず最高120万円までで売却しなければならないわけで、これがランニングコストの高騰を抑えているのだ。

また出場できるライダーは国内C級以上なので、当然国際A級ライダーも出場OK。ちなみに1月に開催された第1戦では54

見逃せない!

鈴鹿サーキットに新しく誕生した、鈴鹿NK4とスーパーバイカーズ in SUZUKA

SUPER BIKERS in SUZUKA

'93-'94スーパーバイカーズ in SUZUKA



93全日本チャンピオンとなった阿部典史。アメリカでダートトラックの修行を積んだだけに、スライドコントロールは絶品だ。

ロードとダートとモトクロスが
一度に楽しめる

スーパーバイカーズは、各カテゴリーのチャンピオンが一堂に会して、最速の座を争うレースだ。コースは1周の中にロードや、ダートや、ジャンプとバラエティーに富んでいる。それぞれ得意なセクションがあるからまったく誰が勝つのか分からず、一度にロードもダートもモトクロスも楽しめるとあって、アメリカやヨーロッパではオフの目玉として盛り上がりを見せている。

雑誌などでその存在は知ってはいたが、

なかなか日本に上陸しなかったこのスーパーバイカーズ。だが、昨年の8月からこの鈴鹿サーキットで日本初の本格的なシリーズ戦が開催されているのだ。

出場するライダーの顔ぶれは元全日本MXチャンピオンの東福寺保雄、92年TT F1チャンピオンの塚本昭一、93年全日本ロードレースGP500チャンピオンの阿部典史など、本場に負けない豪華さ。しかもシーズンオフの遊びレースという感覚ではなく、出場ライダーはみんな真剣! だから毎戦激しい戦いが繰り広げられるのだ。

さらにこのレースは鈴鹿サーキット遊園



モトクロス、ロードレースのライダーが入り乱れての激戦。しかし、このカッコでロードを走ってるのってオモシロイ!!

名の参加者を集め、その中には塚本昭一や岩橋健一郎、宮崎祥司など20名の国内のトップライダーをはじめ、岩城滉一や木村一八などの芸能人まで、多彩な顔ぶれがそろった。

この鈴鹿NK4は鈴鹿サンデーロードレースの併催で行われ、レース時には一般の観客にもパドックが開放される。そこに出演されるPRブースを見て歩いたり、運が良ければ国際A級ライダーにサインをもらえたりと、より身近にレースを楽しめる絶好のチャンスなのだ。

さらに、4耐決勝日と同じ7月17日にはNK4の耐久レースも予定されている。鈴鹿NK4シリーズ。ますます面白くなりそうな、要注目のレースだ。

94年鈴鹿NKシリーズ開催日程

	開催日	コース
第1戦	93年1月9日(日)	東コース
第2戦	2月27日(日)	南コース
第3戦	4月17日(日)	西コース
第4戦	5月7日(土)・8日(日)	フルコース
第5戦*	7月22日(金)~24日(日)	フルコース
第6戦	9月4日(日)	南コース
第7戦	10月23日(日)	西コース
最終戦	12月2日(土)・3日(日)	フルコース

*耐久レースとして開催される。



HONDA CB400SF

第1戦で最も出場台数が多かったマシンは、このCB400SF。予選出場48台中14台を占めた。



YAMAHA XJR400

ハンドリングが優れたベースマシンの特性を生かし、高いコーナリング性能を発揮。今後出場台数も増加しそうなXJR400。



SUZUKI BANDIT400

予選参加3台と少数派のバンディット。しかし決勝では6位入賞圏に食い込み、底力を見せた。



HONDA CB-1

CB400RRと同系列のエンジンを使用しているため人気を集めたCB-1。第1戦の予選通過率はこのマシンがピカ1。



SUZUKI GSX400S KATANA

ヨシムラのノウハウが生きる、GSX400S。エンジンはGSX-R400と同じ。第1戦では出場は1台のみだった。



KAWASAKI ZEPHYR400

予選参加台数はCB-SFに続いて多かったが、パワーで圧倒的に不利と言われていただけに、予選通過率でやや伸び悩んだ。

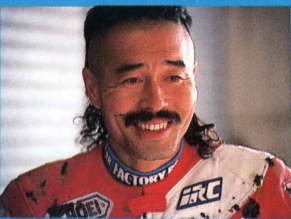
'94新シリーズ

ユニークなレース内容に、大反響を呼んでいるふたつのシリーズ。さて、その魅力とは？

地の入園料だけで見られるというのも魅力。一回見てみればとりこになってしまうこと請け合いだ。さらにもっととりこになったって人は出場するという手もある。チャンピオン総出演のオープンクラスから、100ccまでのミニクラスまで4クラス。自分の持っているバイクに合わせて出場クラスを決めるのもよし、憧れのチャンピオンと走りたい！って理由でオープンにエントリーしたっていい。チャンピオンと走れる。こんなレース、日本のどこ探したってこの鈴鹿のスーパーバイカーズ以外にはない。まだ始まったばかりのスーパーバイカーズだけど、見てもよし、出てもよしのひと粒で2度おいしいレースなのだ。

'93-'94スーパーバイカーズ in SUZUKA開催日程

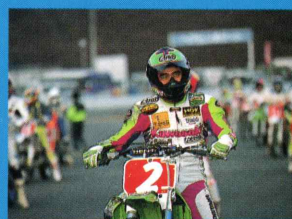
	開催日	コース
第1戦	93年8月1日(日)	南コース
第2戦	12月11日(土)・12日(日)	東コース
第3戦	94年1月16日(日)	南コース
第4戦	3月20日(日)	南コース
第5戦	5月22日(日)	南コース
第6戦	11月22日(日)	南コース
最終戦	12月25日(日)	東コース



第2戦からエントリー開始の伊田井佐夫は、今年から全日本MX125ccにカムバックする元気なベテランライダー。第3戦では2位を獲得して健在をアピール。



ロードレースに転向した元MX国際A級の芹沢太麻樹(右)と、モトクロス時代の師匠の東福寺(左)。この時だけは師弟からライバルへと関係が変わる。



第3戦で念願の初優勝を飾った塚本。元MX国際B級にして、92年全日本TT F1の覇者。それだけにダートでも舗装路でも、どちらも速い万能ライダーだ。

でっかいスタンド席を尻目に、東コースを快走するライダー。東コースはスピードがのるだけに見応え抜群！



SUZUKA CIRCUIT SPECIAL PLAN

レース観戦パック

昨年大好評の観戦パック、今年もさらに充実させてご用意しています。

宿泊パックの主な内容

- ・マッシュルカー先導によるレーシングコースマイカー走行
- ・指定席券と公式プログラム、パドックバス(スーパーバイクシリーズのみ)がセットになったレース観戦券
- ・トブドライバ、ライダーと過ごすパーティーへのご招待
- ・HONDAコレクションホール入場券

日帰りパックの主な内容

- ・指定席券付き予選、決勝通し券
- ・マッシュルカー先導によるレーシングコースマイカー走行
- ・HONDAコレクションホール入場券
- ※上記の内容はレースによって異なる場合がございます。

ご利用料金(税別)

●ミリオンカードカップレースラウンド1～ファイナルラウンド

・Aパック(日曜日宿泊プラン) 21,000円(2,4名)

20,000円(3,5名)

・Bパック(土曜日宿泊プラン) 27,000円(2,4名)

26,000円(2,4名)

・Cパック(土・日連泊プラン) 40,000円(2,4名)

38,000円(3,5名)

・日帰りパック 大人(高校生以上)9,000円

子供(小・中学生)5,000円

●サンスタースーパーバイクシリーズ(200km, 2ヒートレース)

・Aパック(日曜日宿泊プラン) 21,000円(2,4名)

20,000円(3,5名)

・Bパック(土曜日宿泊プラン) 22,500円(2,4名)

21,500円(3,5名)

・Cパック(土・日連泊プラン) 35,000円(2,4名)

33,000円(3,5名)

・日帰りパック 大人(高校生以上)6,000円

子供(小・中学生)4,000円

●インターナショナルポッカ1000kmレース

・Aパック(日曜日宿泊プラン) 21,000円(2,4名)

20,000円(3,5名)

●N1 500km(4/2・3)、鈴鹿500km(7/2・3)

・Aパック(日曜日宿泊プラン) 17,000円(2,4名)

16,000円(3,5名)

・Bパック(土曜日宿泊プラン) 20,000円(2,4名)

19,000円(3,5名)

・Cパック(土・日連泊プラン) 32,000円(2,4名)

30,000円(3,5名)

・N1 500km日帰りパック 大人(高校生以上)7,500円

子供(小・中学生)4,500円

・鈴鹿500km日帰りパック 大人(高校生以上)9,000円

子供(小・中学生)5,000円

お問い合わせ、ご予約は、

宿泊パック 鈴鹿サーキット予約センター

日帰りパック 鈴鹿サーキットチケットセンター 0593-78-1111代



レースカメラマン体験講座

'94レースカメラマン体験講座参加者募集中!!

プレスと同じ場所で写真が撮れるマニアでなくても一度は体験したい講座です。

内容

- ・パドック及びコースサイドでのレース撮影
- ・プロカメラマンによる撮影指導
- ・観戦券・ピットウォーク券
- ・プレス用弁当
- ・望遠レンズの貸し出し
- ・参加賞、オフィシャルプログラムプレゼント
- ・優秀作品の発表(オフィシャルプログラムにて)

宿泊コース(土曜宿泊)

- ・ライダーとの交流パーティー(サンスタースーパーバイクシリーズのみ)
- ・ツインルーム宿泊
- ・朝食バイキング、夕食(サンスターはパーティー)
- ・講師による事前レクチャー

開催日及び参加料(税別)

サンスタースーパーバイクシリーズ

・6月11・12日 サンスタースーパーバイク200km

・9月10・11日 サンスタースーパーバイク2ヒートレース

★各回とも日帰り 17,900円 宿泊 31,900円

・7月30日 "コカ・コーラ"鈴鹿8時間耐久ロードレース公式予選

★日帰りのみ 21,800円(観戦券は参加者各自で購入)

・その他

F3000ミリオンカードカップレースシリーズラウンド2～ファイナルラウンド、鈴鹿耐久シリーズN1 500km、インターナショナル鈴鹿500km、インターナショナルポッカ1000km耐久レースでも開催を予定しています。

お問い合わせは、

鈴鹿サーキット東京営業所 03-3582-3221



マールボログランプリ・ジャパン観戦ツアー

●'94鈴鹿サーキットWGP観戦ツアー

・日程 4/23(土)夜 新宿発～24(日) 車中1泊

(往復 観光バス)

・募集人員 80名 最少催行人数30名

・旅行代金(税込み)

レース観戦券付き 31,000円

S2指定席観戦券付き 40,000円

●'94鈴鹿サーキットWGP観戦ライナー

・日程 4/23(土)夜 池袋発～24(日) 車中1泊

(往路 高速バス、復路 新幹線)

・募集人員 64名 最少催行人数30名

・旅行代金(税込み)

旅行のみ 25,000円

レース観戦券付き 36,000円

C指定席観戦券付き 42,000円

S2指定席観戦券付き 45,000円

お問い合わせは、

鈴鹿サーキット東京営業所 03-3583-6170(ダイヤルイン)



RFC募集中

RFCライダーズファンクラブは、ロードレースライダーで組織するRMA選手会が運営母体の、全日本ロードレースと国際A級ライダーを対象としたオフィシャルファンクラブです。全日本選手権ロードレース・鈴鹿8時間耐久ロードレースが開催されるサーキットで各種RFC会員特典が利用できます。

1994年RFC会員特典 ・年会費/4,000円

- 1) 全日本ロードレース開催サーキット他での「RFC交流パーティー・RFC体験走行会等の各種RFCイベント」への会員の優先・割引参加ができます。
- 2) 同じ開催サーキットでのチケット・指定席・パドックバスなどの優先・割引購入ができます。
- 3) RFC会報「CREDENTIAL」を月1回発行。
- 4) RFCオリジナルステッカーをプレゼント。
- 5) ファンクラブグッズの購入ができます。
- 6) 年末にイベント参加・チケット購入回数把握によるプレゼントがあります。

・新規入会の方は「入会希望」と明記し、住所氏名ご記入のうえ、郵便又はFAXでどうぞ。

入会のお問い合わせは、RFC事務局

〒451 名古屋西区則武新町4-4-19 SG名古屋駅ビル5F
アバンテック ジャパンINC.内

TEL 052-565-0501 FAX 052-565-0502



ポピンズルーム

小さなお子様がいらっしゃるご家族の方にも安心してモーターススポーツ観戦が楽しめる託児サービス ポピンズルームを開設しました。

●設定レースとご利用料金

[実施日]	[申込締切]
3月20日 ミリオンカードカップレース ラウンド1鈴鹿	3月12日
4月3日 鈴鹿N1 500kmレース	3月26日
4月24日 マールボログランプリ・ジャパン	4月17日
5月22日 ミリオンカードカップレース ラウンド2鈴鹿	5月14日
7月3日 インターナショナル鈴鹿500kmレース	6月27日
7月31日 "コカ・コーラ"鈴鹿8時間耐久ロードレース	7月25日
8月28日 インターナショナルポッカ1000km耐久レース	8月20日
10月2日 ミリオンカードカップレース ラウンド3鈴鹿	9月26日
11月4～6日 フジテレビ日本グランプリレース(F1)	10月24日
11月27日 ミリオンカードカップレース ファイナルラウンド鈴鹿	11月21日

託児料金	1時間 1人 1,000円
延長料金	30分毎 500円

※完全予約制です。

お問い合わせ、お申し込みは、

ポピンズサービス京都 担当:八木 TEL (075)252-2100

〒604 京都市中京区寺町通御池西北角 国友御池ビル5F

シリーズセット券発売中!!

指定席もついていますお得なシリーズセット券、今シーズンから新発売ぜひご利用下さい。

・F3000ミリオンカードカップレース 全4戦

通常28,000円→20,000円(税込み)

・鈴鹿耐久シリーズ 全3戦(N1 500km, 鈴鹿500km, ポッカ1000km)

通常19,500円→12,000円(税込み)

お問い合わせ、お求めは、

鈴鹿サーキットチケットセンター 0593-78-1111代

絶版車シリーズ第2弾!

1994年絶版車 バイブル Z 伝説

Mr. Bike モーターマガジン **BG**
Buyer's Guide

臨時増刊

3月24日発売予定

予価¥480

1973年2月
“究極”を意味する
Zの名が与えられた
マシンがデビューした。



モーターマガジン社

東京都港区新橋5-33-10

☎03(3434)3151 FAX03(3434)3164

CYCLE SOUNDS

サイクルサウンズ
ロードスポーツマガジン
毎月1日発売!!

SINCE
1982

ロードレースを
独走中!!

走ってみたい、見てみたい
サイクルサウンズ

定価 580円
(税込)

全国書店・コンビニエンス
ストア・サーキットでお求
めください。

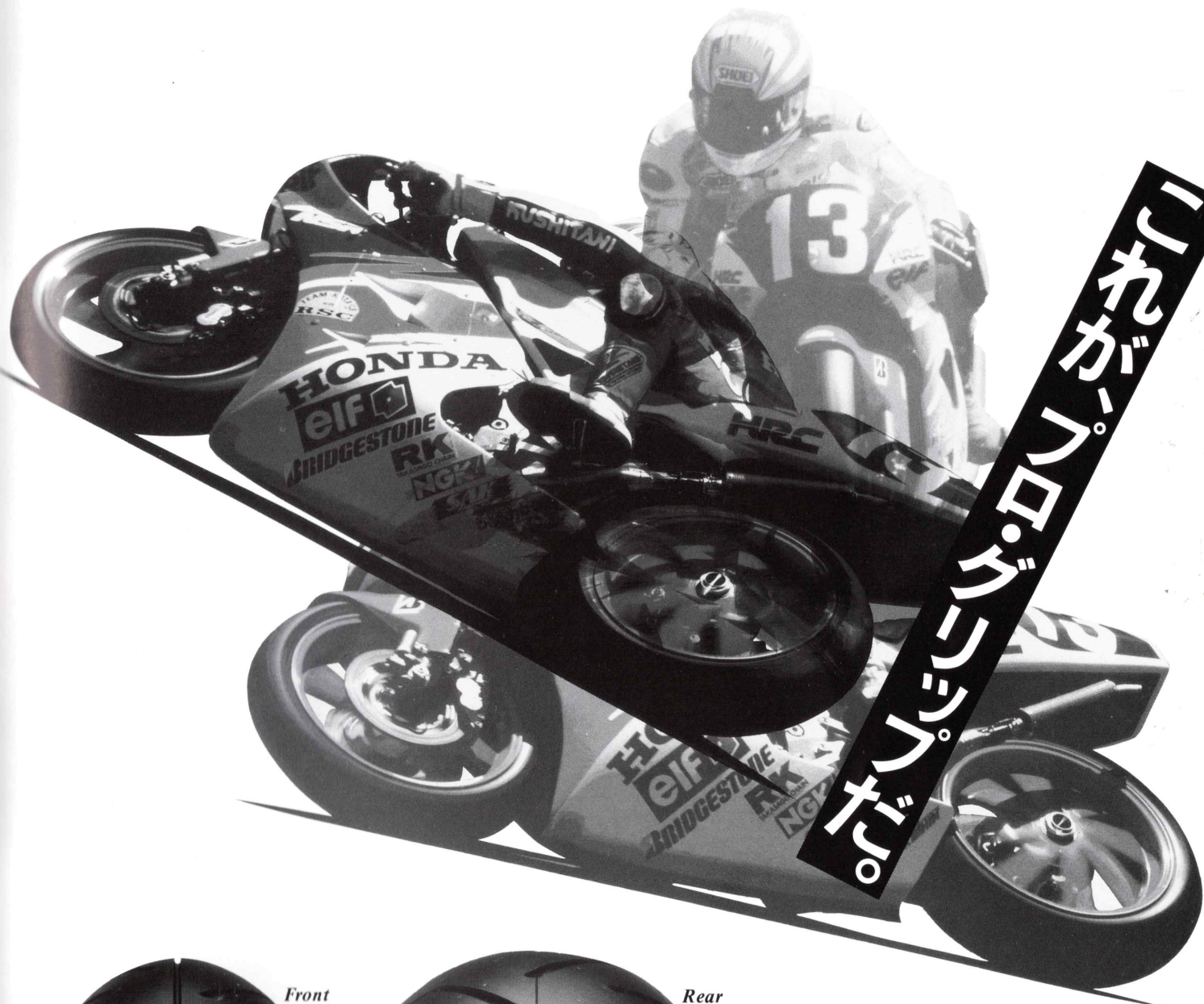
ミニバイクから世界GPまで
当然地方選手権は
全国をフルレポート

サイクルサウンズは **総合誌**
ロードレースの **総合誌** です

since 1896
100th
創業100周年

株山海堂

〒113 東京都文京区本郷5-5-18 TEL.03(3816)1617 FAX.03(3816)1619



「じゃが、プロ・イン・コン・プレッソ。」

Front

Rear



**勝つために大胆にステップアップした
NEW 80S。**

BT-80SからNEW80Sへ。目指したのは、「速さ」だけではない。ライダーの感性を刺激する「操る楽しさ」まで身につけることだった。そこで、フロントでは、シビアなレースになればなるほど心強い、大胆な旋回性能を実現。リアでは、MS・BELTのしなやかさに強靱さを加えることで、キレのいい加速感、スライドコントロール性、グリップ耐久性までが高まった。これぞ、正真正銘、プロ・グリップ。アクセルを開け、コーナーを自在に駆け抜けてほしい。

サーキット・スペック

**BT-80S
RADIAL**

BATTLEAX
from BRIDGESTONE MOTORSPORT

キレで決める。

勝てる走りには、キレがある。鋭い突っ込み。計算された
 アクセル&ブレーキポイント。攻めに徹したコーナリング。
 ライバルの微妙な動きから、次のラインが読みとれるか。
 レースの流れを読む頭のキレが、勝負を決める。
 チェッカーフラッグを、ひるがえらせる。

サーキットの男が戦う、汗と、オイルと、プレッシャー。
 トニックのキレが、充実感に変えていく。あらたな自信を呼び覚ます。
 スッキリ爽快、サンスタートニックシャンプー。決め手は、キレだ。



天然メントール配合 サンスタートニックシャンプー
 (サラサラ仕上げ)